

対象校No.251
注4

学校コード F134210111926
注3

設置年度 令和 3年度

計画の区分： 大学の設置
注1



注2
広島県公立大学法人観啓大学 ソーシャルシステムデザイン学部 ソーシャルシステムデザイン学科

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書
(改正前大学設置基準適用)

広島県公立大学法人
令和6年5月1日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	教育企画課
職名・氏名	カリリョウチナオコ 係長 越智直子
電話番号	082-225-6312（内線：2024）
（夜間）	082-225-6312（内線：2024）
e-mail	academic-planning@eikei.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、該当番号を記載してください。

目次

ソーシャルシステムデザイン学部

＜ソーシャルシステムデザイン学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	17
5. 教員組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	38
7. その他全般的事項	43

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

広島県公立大学法人

(2) 大 学 名

叡啓大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒730-0016

広島県広島市中区幟町1-5

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(ツチヤ サダユキ) 土屋 定之 (令和3年4月1日)	(モリナガ ツトム) 森永 力(代行) (令和4年5月1日)	＝身上の都合によりR4.4.30付で退職。地方独立行政法人法第14条の規定により、法人が行う事務・事業に関して高度な知識・経験する者などの中から、知事が任命する予定。次期理事長が任命されるまでの間、広島県公立大学法人定款第9条第4項の規定に基づき副理事長である県立広島大学森永力学長がR4.5.1付で理事長職務代行者となり理事長の職務を行う(4) 地方独立行政法人法第14条の規定により、法人が行う事務・事業に関して高度な知識・経験する者などの中から、知事が任命し、令和5年4月1日に理事長に就任した。(5)
学 長	(アリノブ ムツヒロ) 有信 睦弘 (令和3年4月1日)		
学 部 長	(ヤスイ トシユキ) 保井 俊之 (令和3年4月1日)		
学科長等			

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)
 令和6年度に報告する内容 → (6)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
- ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和6年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) ー① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
ソーシャルシステム デザイン学部 ソーシャルシステム デザイン学科 学士(学術)	文学関係 経済学関係 理学関係	4 年	100 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	400 人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和○年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「ー」を選択。)

(5) ー② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	80人 (-) [20]	20人 (-) [20]	80人 (-) [20]	20人 (-) [20]	80人 (-) [20]	20人 (-) [20]	80人 (-) [20]	20人 (-) [20]				その他の学期(秋季入学)は5月1日現在では未確定のため、収容定員充足率は令和6年度春季入学までの入学定員と入学者数及び学生数により算出した。
志願者数	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	166 (-) [2]	20 (-) [19]	117 (-) [8]	22 (-) [19]	126 (-) [4]	31 (-) [31]	144 (-) [15]	人 (-) [-]				
受験者数	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	149 (-) [2]	15 (-) [14]	107 (-) [6]	17 (-) [14]	109 (-) [4]	20 (-) [20]	129 (-) [10]	人 (-) [-]				
合格者数	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	90 (-) [2]	11 (-) [10]	93 (-) [3]	14 (-) [12]	91 (-) [2]	9 (-) [9]	103 (-) [5]	人 (-) [-]				
B 入学者数	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	人 (-) [-]	86 (-) [2]	8 (-) [7]	80 (-) [2]	8 (-) [8]	78 (-) [1]	9 (-) [9]	80 (-) [4]	人 (-) [-]				
入学定員超過率 B/A	-		-		0.94		0.88		0.87		1.00					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「ー」を記入してください。
- ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「ー」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「ー」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「ー」を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
- なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「ー」を選択。)
- ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
- 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
- ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
- なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「ー」としてください。
- ・ 「(5) ー② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」A0対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5)－③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	85 [2] (ー)	8 [5] (ー)	80 [3] (ー)	8 [8] (ー)	77 [1] (ー)	9 [8] (ー)	80 [9] (ー)	0 [] (ー)	令和３年度は開学年度であり、春季入学のみ確定。その他の学期の入学定員：20（３） 令和３年度春季入学者１名が退学したため、修正。令和３年度秋入学者数を追記（４） 令和３年度春季入学者４名が退学したため、修正。令和４年度秋入学者数を追記（５） 令和４年度春季入学者３名、令和５年度春季入学者１名が退学したため、修正。令和５年度秋入学者数を追記（４）
２年次			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	81 [2] (ー)	8 [5] (ー)	77 [3] (ー)	8 [8] (ー)	77 [1] (ー)	9 [8] (ー)	
３年次							－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	81 [2] (ー)	8 [5] (ー)	
４年次											－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	
計			－ [ー] (ー)	－ [ー] (ー)	93 [7] (ー)	177 [18] (ー)					260 [27] (ー)	340 [36] (ー)	

- (注) ・ 報告年度の５月１日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
 - また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	94 人	1 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	1 人	人	他教育機関への進路再考(1人)
令和4年度	177 人	4 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	4 人	人	他教育機関への入学(1人)、就学意欲の低下(3人)
			令和4年度	人	人	
令和5年度	260 人	4 人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	3 人	人	他教育機関への入学(3人)
			令和5年度	1 人	人	健康上の理由(1人)
令和6年度	340 人	人	令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	人	人	
			令和6年度	人	人	
合 計		9 人		9 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留學生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) 一⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\quad - \quad} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{\quad - \quad} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{94} = \boxed{1.06} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{177} = \boxed{2.25} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{4}{260} = \boxed{1.53} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{340} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和3年度】

- ・Listening English I/リスニング英語Ⅰ, Listening English II/リスニング英語Ⅱについては、RAFIEYAN VAHID(ラフィエヤンヴァヒド)准教授予定者のやむを得ない事情による就任辞退に伴い、准教授1名減。当該科目担当の教授が指導体制に責任を持ち、引き続き授業を担当。あわせて、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制(より専門性に応じた兼任教員配置の見直しを含め)を考慮した兼任教員の変更(担当者の変更)、兼任教員の1名の追加・補充。現時点では教育上の支障はないが、直ちに後任の専任教員を補充するべく、専任教員公募実施予定。(教授1, 准教授2, 講師1, 兼1→教授1, 准教授1, 講師1, 兼2)
- ・Writing English I/ライティング英語Ⅰ, Speaking English I/スピーキング英語Ⅰ, Writing English II/ライティング英語Ⅱ及びSpeaking English II/スピーキング英語Ⅱも同様に上記の准教授1名減。現時点において、当該科目実施状況から教育上の支障はないが、上記科目同様に直ちに後任の専任教員を補充するべく、専任教員公募実施予定。(教授1, 准教授2, 講師1, 兼1→教授1, 准教授1, 講師1, 兼1)
- ・Reading English I/リーディング英語Ⅰ及びReading English II/リーディング英語Ⅱも同様に上記の准教授1名減。当該科目担当の教授が指導体制に責任を持ち、引き続き授業を担当。あわせて、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制(より専門性に応じた兼任教員配置の見直しを含め)を考慮した兼任教員2名の追加・補充。現時点では教育上の支障はないが、上記科目と同様に直ちに後任の専任教員を補充するべく、専任教員公募実施予定。(教授1, 准教授2, 講師1, 兼1→教授1, 准教授1, 講師1, 兼3)
- ・Current English/カレントイングリッシュも同様に准教授1名減。当該科目の開講は2年次以降であり、現時点では教育上の支障はないが、2年次の科目開講前までに後任の専任教員を補充するべく、上記科目と同様に専任教員公募実施予定。また、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制(より専門性に応じた兼任教員配置の見直しを含め)を考慮した兼任教員の変更(担当者の変更)。(准教授1, 兼1→准教授0, 兼1)
- ・Presentation English/プレゼンテーションイングリッシュも同様に准教授1名減。また、科目内容を精査し、教育課程上の再調整から兼任の講師1名減。2年次の科目開講前までに後任の専任教員を補充するべく、上記科目と同様に専任教員公募実施予定。AC教員審査受審後、専任教員確保以後は准教授以上1名及び講師1名の専任教員2名での責任指導体制の予定のため、教育上の支障はない。(准教授1, 講師1, 兼1→准教授0, 講師1, 兼0)
- ・Academic Reading/アカデミックリーディング, Academic Writing/アカデミックライティング及びCommunicative English/コミュニケーションイングリッシュは、科目内容を精査し、教育課程上の再調整から兼任の講師1名減。専任教員の責任指導体制のもとでの授業の実施に改め、教育効果の向上を図る。(講師1, 兼1→講師1, 兼0)
- ・Logical Thinking/ロジカルシンキング, Introduction to Philosophy and Ethics/哲学・倫理学入門, Philosophy and Ethics/哲学・倫理学は、空木雅史教授予定者のやむを得ない事情による就任辞退に伴い、教授1名減。後任は、専任教員公募時の候補者より後任教員を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた。今後は速やかに採用手続きに入る予定。令和3年10月の授業開始前の就任のため、教育上の支障はない。(ロジカルシンキング:教授1, 兼1→教授0, 兼1/哲学・倫理学入門:教授1→教授0/哲学・倫理学:教授1→教授0)
- ・Japanese Academic Writing/日本語アカデミックライティング, Introduction to Ethics of Science and Technology/科学技術倫理入門, History of Science and Technology/科学技術史は、石村源生教授予定者のやむを得ない事情による就任辞退に伴い、教授1名減。後任については、直ちに公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた。今後は速やかに採用手続きに入る予定。令和3年10月の授業開始前の就任のため、教育上の支障はない。(日本語アカデミックライティング:教授1, 准教授1→教授0, 准教授1/科学技術倫理入門:教授1, 准教授1→教授0, 准教授1/科学技術史:教授1→教授0)
- ・Legal Mind/法的思考, Peace Studies/平和論及びIntroduction to International Cooperation and Security/国際協力・安全保障概論は、高須司江教授予定者のやむを得ない事情による就任辞退に伴い、各科目教授1名減。各科目の後任については、直ちに公募を実施し2名を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)において、2名が受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた。今後は速やかに採用手続きに入る予定。令和3年10月の授業開始前の就任のため、教育上の支障はない。(法的思考:教授1→教授0/平和論:教授1→教授0/国際協力・安全保障論:教授1→教授0, 講師1)
- ・Domestic Volunteer Program/国内ボランティア, Domestic Internship Program A/国内インターンシップA, Domestic Internship Program B/国内インターンシップB, Volunteer Abroad Program/海外ボランティア, Internship Abroad Program/海外インターンシップは、空木雅史教授予定者、石村源生教授予定者及び高須司江教授予定者の上記やむを得ない事情による就任辞退のため、各科目教授3名減。また、RAFIEYAN VAHID(ラフィエヤンヴァヒド)准教授予定者が上記やむを得ない事情による就任辞退のため、准教授1名減。当該科目の後任は大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた(3名)。今後は速やかに採用手続きに入る予定。また、RAFIEYAN VAHID(ラフィエヤンヴァヒド)准教授予定者の後任教員について上記の通り、専任教員公募実施予定。令和4年4月の授業開始前の就任のため、教育上の支障はない。
- ・Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラム, Introduction to Project Based Learning /課題解決入門, Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習1A, Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習1B, Project Based Learning Exercise 1C/課題解決演習1C及びDegree Project/卒業プロジェクトは、空木雅史教授予定者、石村源生教授予定者及び高須司江教授予定者の上記やむを得ない事情による就任辞退のため、各科目教授3名減。また、RAFIEYAN VAHID(ラフィエヤンヴァヒド)准教授予定者が上記やむを得ない事情による就任辞退のため、准教授1名減。当該科目の後任は大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた(4名)。今後は速やかに採用手続きに入る予定。また、RAFIEYAN VAHID(ラフィエヤンヴァヒド)准教授予定者の後任教員について上記の通り、専任教員公募実施予定。令和4年4月の授業開始前の就任のため、教育上の支障はない。
- ・(国内ボランティア, 国内インターンシップA・B:教授12, 准教授7, 講師2→教授9, 准教授6, 講師2/海外ボランティア, 海外インターンシップ, 海外短期プログラム:教授12, 准教授5, 講師2→教授9, 准教授4, 講師2)
- ・C E F R レベルB 2未達成の学生にのみ I E P を履修させることとしていたが、学生の英語力の更なる向上や、学生間が相互交流を行うための環境の構築を目的とし、春入学の学生は全員一律で I E P を履修させることとして変更した。

【令和4年度】

- ・Listening English I/リスニング英語Ⅰ, Reading English I/リーディング英語Ⅰ, Speaking English I/スピーキング英語Ⅰ, Listening English II/リスニング英語Ⅱ, Reading English II/リーディング英語Ⅱ, Speaking English II/スピーキング英語Ⅱについて、RAFIEYAN VAHID准教授が就任辞退。後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置したが、担当を兼任講師から令和4年4月に着任の専任教員として、George Michael Higginbotham准教授(令和3年12月教員審査済み)を新規採用し、兼任講師から担当者として変更。(教授1, 准教授1, 兼1, スピーキング英語Ⅰのみ准教授1, 講師1, 兼1)
- ・Introduction to ICT/ICT入門, Essential Programming/プログラミング入門については、授業実施状況及び教育の質の維持・向上に鑑みて、教員配置を見直し、土本康生准教授のみを担当者として配置。引き続き当該教員の責任指導体制のもとでの授業実施のため、教育上の支障はない。(准教授1, 兼1→准教授1)
- ・Introduction to Data ScienceA/データサイエンス概論Aは、教育上の質の維持・向上に鑑みて兼任講師と専任講師である山田芳則教授のオムニバスから、山田教授と令和4年10月に着任予定である専任講師森俊樹教授(令和3年12月教員審査済み)とのオムニバスに変更予定。(教授1, 兼1→教授2)
- ・Data Analysis and Statistical modeling/データ分析とモデリング(令和4年末開講), Data Visualization/データ可視化, AI and Business Application/AIビジネス活用論(令和4年末開講)は、教育上の質の維持・向上に鑑みて、兼任講師から令和4年10月に着任予定である森俊樹教授に担当者変更。(兼1→教授1)
- ・Introduction to Data ScienceB/データサイエンス概論B(令和4年末開講)は、教育上の質の維持・向上に鑑みて兼任講師から令和4年10月に着任予定である専任講師森俊樹教授(令和3年12月教員審査済み)に担当者変更。(兼1→教授1)
- ・Data Visualization/データ可視化については、教育上の質の維持・向上に鑑みて兼任講師から令和4年10月に着任予定である専任講師森俊樹教授(令和3年12月教員審査済み)に担当者変更。(兼1→教授1)
- ・Practical Data Science/データサイエンス実践論(令和4年末開講)は、教育上の質の維持・向上に鑑みて兼任講師から令和4年10月に着任予定である専任講師森俊樹教授(令和3年12月教員審査済み)に担当者変更。(兼1→教授1)
- ・Logical Thinking/ロジカルシンキングは、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置。後任の専任教員については、令和4年6月のAC教員審査受審予定。教員資格審査において可の判定を受けた場合は、速やかに採用手続きに入り、兼任講師から当該教員に担当者変更予定。
- ・Design Thinking/System Thinking/デザイン思考・システム思考については、兼任講師と専任講師である早田吉伸教授の担当から、教育上の質の維持・向上に鑑み、早田教授と令和4年4月に着任した専任講師である川瀬真紀教授(令和3年12月教員審査済み)に担当者変更。(教授1, 兼1→教授2)
- ・Project Management/プロジェクトマネジメント, Facilitation/ファシリテーションについては、授業の実施状況及び教育の維持・向上に鑑みて、教員の配置を見直し、瀬谷素子講師のみを担当者として配置。(准教授1, 兼1→准教授1)
- ・Japanese Academic Writing/日本語アカデミックライティングについては、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員として、令和3年10月水島希准教授を新規採用(令和3年3月教員審査済み)に担当者として追加配置(准教授1→准教授2)
- ・Legal Mind/法的思考については、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員として、令和3年7月長岡とくら准教授を新規採用(令和3年3月教員審査済み)に担当者として配置。(教授→准教授)
- ・Introduction to Mathematics/数学入門については、教育上の質の維持・向上に鑑みて、河本直紀兼任講師を追加した。(兼1→兼2)
- ・Introduction to Health Science/健康学入門については、教育の質の維持・向上に鑑みて、授業方式をオムニバス方式に変更するとともに教員の配置を見直し、新たな兼任講師3名の配置に変更。(兼1→兼3)
- ・Introduction Psychology/心理学概論については、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師2名を配置。後任の専任教員については、令和4年3月のAC教員審査受審中(結果は令和3年5月末)。教員資格審査にて可の判定を受けた場合は速やかに採用の手続きに入り、担当者として配置予定。
- ・Peace Studies/平和論については、専任教員の就任辞退を受け、令和3年9月安富淳准教授を新規採用(令和3年3月教員資格審査済み)し、当該教員を担当者として配置。(教授→准教授)
- ・Introduction to Business Administration/経営学概論については、専任教員が就任辞退。後任の専任教員の選考を実施したものの、適任者該当なし。後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置。現在後任について選考中である。
- ・Introduction to International Cooperation and Security/国際協力・安全保障概論については、教育上の質の維持・向上に鑑みて、令和3年9月に着任した専任講師である安富淳准教授を担当者として追加。(講師1→准教授1, 講師1)
- ・Introduction to Artificial Intelligence/人工知能概論については、教育上の質の維持・向上に鑑みて、令和4年10月森俊樹教授予定者を新規採用(令和3年12月教員審査済み)し、兼任講師から担当者変更。(兼1→教授1)
- ・Introduction to Cognitive Science/認知科学概論については、専任教員の就任辞退を受けて、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任教員2名を配置。後任の専任教員についてはAC教員審査受審中(結果は5月末予定)。教員審査にて可の判定を受けた場合は速やかに採用手続きに入り、担当者として配置予定。
- ・Healthcare Services/ヘルスケアサービス論については、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず当該教員が引き続き兼任講師として担当。(教授1→兼1)後任の専任教員の選考を実施したものの、適任者該当なし。現在後任について選考中である。
- ・Introduction to Social Psychology/社会心理学概論については、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置。後任の専任教員についてはAC教員審査受審中(結果は5月末予定)。教員審査にて可の判定を受けた場合は速やかに採用手続きに入り、担当者として配置予定。
- ・Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論については、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員の選考を実施したものの、適任者該当なし。後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置。現在後任について選考中である。
- ・Social Entrepreneurship/社会起業家論については、科目開講時期に合わせて露本真也子兼任講師の就任時期を変更。また、教育の質の維持・向上のため、Ahmed Ashir兼任講師を担当者として追加する。
- ・Finance/ファイナンス論については、授業実施状況及び教育の質の維持・向上に鑑みて、教員の配置を見直し、小野浩二准教授のみを担当者として配置。(准教授1, 兼1→准教授1)
- ・History of Science and Technology/科学技術史については、専任教員の就任辞退を受け、令和3年10月水島希准教授(令和3年3月教員審査済み)を新規採用し、担当者として配置(教授→准教授)。
- ・早田吉伸准教授が令和3年6月専任教員として昇任(令和3年3月教員審査受審済み)、当該教員の担当科目(Regional Revitalization/地域活性化論)の教員の職位別の専任教員数を変更。(准教授1→教授1)
- ・Domestic Volunteer Program/国内ボランティア, Domestic Internship Program A/国内インターンシップA, Domestic Internship Program B/国内インターンシップBについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の川瀬教授、安富准教授、水島准教授、George Michael Higginbotham准教授を追加。(教授9, 准教授6, 講師2→教授9, 准教授8, 講師2)
- ・Volunteer Abroad Program/海外ボランティア, Internship Abroad Program/海外インターンシップは、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の川瀬教授、安富准教授、水島准教授、George Michael Higginbotham准教授の追加。(教授9, 准教授4, 講師2→教授9, 准教授7, 講師2)
- ・Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラムについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の川瀬教授、安富准教授、水島准教授、長岡准教授、George Michael Higginbotham准教授の追加。(教授9, 准教授4, 講師2→教授9, 准教授8, 講師2)
- ・Introduction to Project Based Learning/課題解決入門, Project Based Learning Exercise II/問題解決演習IIについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の川瀬教授、安富准教授、水島准教授、長岡准教授、George Michael Higginbotham准教授の追加。(教授9, 准教授6, 講師2→教授9, 准教授9, 講師2)
- ・Project Based Learning Exercise I A/課題解決演習1A, Project Based Learning Exercise I B/課題解決演習1Bについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の川瀬教授、安富准教授、水島准教授、長岡准教授、George Michael Higginbotham准教授の追加。(教授9, 准教授6, 講師2→教授9, 准教授9, 講師2)
- ・Degree Project/卒業プロジェクトについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の川瀬教授、安富准教授、水島准教授、長岡准教授、George Michael Higginbotham准教授の追加。(教授9, 准教授6, 講師2→教授9, 准教授9, 講師2)

【開講クォーター変更理由】

アカデミックリーディング
アカデミックライティング
コミュニケーションイングリッシュ
カレントイングリッシュ
→1年次の①又は②の開講予定であったが、選択科目のため、他に必修科目が多数存在する1年次では、履修者が少なくなる可能性があるため、できる限り履修登録者を1つのクラスに集中させ、また、秋入学も一緒に履修させることでディスカッション等における教育効果の向上をにらみ、③又は④のみの開講として変更した。

- 【データサイエンス概論A】
 - ・①の開講予定であったが、他のICT・データサイエンス科目に繋がる重要な必修科目であることから、開講クォーターの開講時期可能性を広げて学生が履修しやすくするため、①に加えて②にも開講することとした。
- 【ウェブプログラミングとアプリ開発】
 - ・①③の開講予定であったが、同科目はシラバス上、PBL科目との連動について記載しており、PBLを学んだ上で本科目を受講推奨する意図から、③・④として変更した。(学生は、①又は②に必修科目としてPBL科目を履修するため)選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【IoT利用による問題解決】
 - ・②③の開講予定であったが、兼任教員のスケジュールの都合上、③・④として変更した。選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【健康学入門】
 - ・②③の開講予定であったが、実技を含めた科目であり、学生に対して東立広島大学体育館への移動の負担が生じることから、学生が履修しやすいつ集中講義とした。また、グループで実技を行うにあたり、日本語・英語2クラスを合同で実施することによる教育効果の向上をにらみ、12月(③のみ)の集中講義として変更した。
- 【宗教と歴史】
 - ・①③の開講予定であったが、兼任教員の都合により、③④とした。選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【人工知能概論】
 - ・②④の開講予定であったが、同科目を担当する兼任教員が担当する必修科目「データサイエンス概論A」を①②に変更して開講することとしたため、当該教員の業務上の負担軽減による教育効果の向上をにらみ、③④へ変更した。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【数学的思考法】
 - ・②④の開講予定であったが、兼任教員の都合により、④とした。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【哲学・倫理学】
 - ・①③の開講予定であったが、哲学・倫理学分野の専任教員のAC審査が終了し、10月着任予定のため、着任後の③・④の開講とした。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【多文化共生社会論】
 - ・①③の開講予定であったが、担当教員他業務(主に体験・実践プログラムの構築・推進)の状況を考慮し、今年度は③の開講とした。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【日本文化論】
 - ・②③の開講予定であったが、担当授業のテーマとして日本の祭事で上演される郷土芸能等について取り上げることから、教育効果の向上をにらみ、夏季休眼中を含めて授業外でフィールドワーク等に参加しやすい②へ変更した。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【異文化論】
 - ・②④の開講予定であったが、多くの学生にとっての自国文化にあたる「日本文化論」の履修後に「異文化論」を履修させることが教育効果の向上に望ましいと判断し、④のみへ変更した。
- 【公共芸術論】
 - ・②④の開講予定であったが、兼任教員の都合により、③④とした。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【経営戦略・組織論】
 - ・①③の開講予定であったが、辞退教員の後任の採用を調整中のため、今年度については③④とした。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【マーケティング論】
 - ・①③の開講予定であったが、HBMS専攻長である法人内兼担教員の業務の都合を考慮し、今年度については②③とした。(現在、後任の専任教員の採用準備中である。)
- 【ファイナンス論】
 - ・①③の開講予定であったが、主に英語版の科目について、日本の金融事情をベースとした授業を展開することから、海外から入学する秋入学生ができる限り理解しやすいよう、入学後1年が経過する年度の後半で開講するため、③④とした。
- 【フィールドワーク研究】
 - ・②④の開講予定であったが、他のリベラルアーツ科目で多くのフィールドワークを実施する可能性が高いため、できる限り他の科目に先んじて履修ができるよう、①②に変更した。
- 【文化人類学概論】
 - ・①③の開講予定であったが、フィールドワーク研究の開講クォーター変更に伴い、当該2科目の担当教員の業務の負担を踏まえた教育の維持のため、③④とした。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【環境経済学】
 - ・①③の開講予定であったが、1年次向けの必修科目である「経済学入門」を当該科目の担当教員が③④に4クラスを担当することから、教員の負担軽減による教育の質の向上の観点から、②に開講することとした。
- 【都市環境論】
 - ・①③の開講予定であったが、1年次向けの必修科目である「環境学入門」を当該科目の担当教員が③④に4クラスを担当することから、教員の負担軽減による教育の質の向上の観点から、②に開講することとした。

【令和5年度】

・Writing EnglishⅠ/ライティング英語Ⅰ, Speaking EnglishⅠ/スピーキング英語Ⅰ, Writing EnglishⅡ/ライティング英語Ⅱ, Speaking EnglishⅡ/スピーキング英語Ⅱ, アカデミックライティング担当のBURROWS Christian准教授は令和5年4月1日付け、教授に昇任（令和4年12月教員審査済み）

・Writing EnglishⅠ/ライティング英語Ⅰ, Speaking EnglishⅠ/スピーキング英語Ⅰ, Writing EnglishⅡ/ライティング英語Ⅱ, Speaking EnglishⅡ/スピーキング英語Ⅱ, Academic Reading/アカデミックリーディング, Presentation English/プレゼンテーションイングリッシュ担当のKASPAREK Nicholas講師は令和5年4月1日付け、准教授に昇任（令和4年12月教員審査済み）。

・Listening EnglishⅠ/リスニング英語Ⅰ, Reading EnglishⅠ/リーディング英語Ⅰ, Speaking EnglishⅠ/スピーキング英語Ⅰ, Listening EnglishⅡ/リスニング英語Ⅱ, Reading EnglishⅡ/リーディング英語Ⅱ, Speaking EnglishⅡ/スピーキング英語Ⅱについて、RAFIEYAN VAHID准教授が就任辞退。後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置したが、担当を兼任講師から令和4年4月に着任の専任教員として、George Michael Higginbotham准教授（令和3年12月教員審査済み）を新規採用し、兼任講師から担当者として変更。

・Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ, Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱについて、George Michael Higginbotham准教授の担当科目として追加するため、令和4年12月の教員審査を受審。担当として認められたため、令和5年4月より当該科目を担当。

（実践英語科目：教授1、准教授2、講師1、兼7⇒教授2、准教授2、兼5）

・Introduction to Data ScienceA/データサイエンス概論Aは、教育上の質の維持・向上に鑑み、専任教員である山田芳則教授と森俊樹教授（令和3年12月教員審査済み）とのオムニバスに変更。（教授1、兼1⇒教授2）

・Data Analysis and Statistical modeling/データ分析と統計モデリング(令和4年未開講)、AI and Business Application/AIビジネス活用論(令和4年未開講)は、専任教員の負担軽減及び教育上の質の向上に鑑みて、科目内容、教員の研究業績を勘案し、当該科目の担当者として相応しい兼任講師複数名に変更。当該教員は他大学でデータサイエンス関連科目の教歴等を有し、教育上の支障はない。（教授1⇒兼3）

・Introduction to Data ScienceB/データサイエンス概論B(令和4年未開講)は、教育上の質の維持・向上に鑑みて兼任講師から令和4年10月に着任した専任教員である森俊樹教授（令和3年12月教員審査済み）に担当者変更。（兼1⇒教授1）

・Data Visualization/データ可視化法については、教育上の質の維持・向上に鑑みて兼任講師から令和4年10月に着任した専任教員である森俊樹教授（令和3年12月教員審査済み）に担当者変更。（兼1⇒教授1）

・Practical Data Science/データサイエンス実践論(令和4年未開講)は、教育上の質の維持・向上に鑑みて兼任講師から令和4年10月に着任した専任教員である森俊樹教授（令和3年12月教員審査済み）に担当者変更。（兼1⇒教授1）

・Web Programming and Application Development/ウェブプログラミングとアプリ開発については、教育上の質の維持・向上に鑑み、宇野健兼任講師に代わり、亀谷圭介兼任講師、川崎恵祐兼任講師を担当として追加し、大谷幸三兼任講師との3名体制とする。（兼3）

・Logical Thinking/ロジカルシンキングは、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任教員を配置したが、担当を兼任講師から令和4年10月就任の専任教員である渡邊和典准教授（令和4年6月教員審査済み）に変更。（兼1⇒准教授1）

・Design Thinking, System Thinking/デザイン思考・システム思考については、兼任講師と専任教員である早田吉伸教授の担当から、教育上の質の維持・向上に鑑み、早田教授と令和4年4月に就任した専任教員である川瀬具紀教授（令和3年12月教員審査済み）に担当者変更。（教授1、兼1⇒教授2）

・Project Management/プロジェクトマネジメント, Facilitation/ファシリテーションについては、授業の実施状況及び教育の維持・向上に鑑みて、教員の配置を見直し、瀬古素子准教授（令和4年6月1日付で瀬古素子講師は准教授に昇任、教員審査済み）のみを担当者として配置。（准教授1、兼1⇒准教授1）

・Mathematical Thinking/数学的思考法について、教育上の質の維持、向上に鑑み、市村匠兼任講師に代わり、青木由香利兼任講師、契怡舟兼任講師の2名体制とする。（兼1⇒兼2）

・Religion and History/宗教と歴史について、西井美穂兼任講師が体調不良のため、令和4年1月より杉木恒彦兼任講師に担当者変更。（兼1⇒兼1）

・Marketing Theory/マーケティング論については、教育上の質の維持、向上に鑑み、江戸克栄兼任講師に代わり、岡田浩一兼任講師に担当者変更。（兼1⇒兼1）

・Introduction Psychology/心理学概論については、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師2名を配置したが、担当を兼任講師から令和4年10月に就任した専任教員である中島基宏准教授に変更。（兼2⇒准教授1）

・Introduction to Business Administration/経営学概論, Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論については、専任教員が就任辞退。後任の専任教員の選考を実施したものの、適任者該当なし。後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置。後任の専任教員について、5月22日のAO教員審査により、科目適合性が認められたため、令和5年10月より鄭雅方講師が担当予定。

・Introduction to International Cooperation and Security/国際協力・安全保障概論については、令和4年6月1日付で講師から准教授に昇任した瀬古素子准教授と令和3年9月に就任した専任教員である安富淳准教授を担当者として配置。（講師1⇒准教授2）

・Introduction to Artificial Intelligence/人工知能概論については、教育上の質の維持・向上に鑑みて、兼任講師から令和4年10月に就任した専任教員である森俊樹教授に担当者変更（兼1⇒教授1）

・Introduction to Cognitive Science/認知科学概論については、専任教員の就任辞退を受けて、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師2名を配置していたが、兼任講師から令和4年10月に就任した専任教員である中島基宏准教授に変更。（兼2⇒准教授1）

・Healthcare Services/ヘルスケアサービス論については、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず当該教員が引き続き兼任講師として担当。（教授1⇒兼1）。後任の専任教員の選考を実施したものの、適任者該当なし。

令和5年度からは喜多島知穂兼任講師に担当者変更。

・Introduction to Social Psychology/社会心理学概論については、専任教員の就任辞退を受け、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置していたが、兼任講師から令和4年10月に着任した専任教員である中島基宏准教授に変更。（兼2⇒准教授1）

・Project Based Learning ExerciseⅠB/課題解決演習ⅠBを担当していた松浦康之兼任講師は、令和5年4月から専任教員に変更。（令和4年12月教員審査済み）

・Social Entrepreneurship/社会起業家論については、科目開講時期に合わせて露木真也子兼任講師の就任時期を変更。また、教育の質の維持・向上のため、ヤング吉原 麻里子兼任講師を担当者として追加。

・Domestic Volunteer Program/国内ボランティア, Domestic Internship ProgramA/国内インターンシップA, Domestic Internship ProgramB/国内インターンシップBについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の森俊樹教授、中島基宏准教授、渡邊和典准教授、松浦康之講師を追加。（教授9、准教授8、講師2⇒教授11、准教授11、講師1）

・Volunteer Abroad Program/海外ボランティア, Internship Abroad Program/海外インターンシップは、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の森俊樹教授、中島基宏准教授、渡邊和典准教授、松浦康之講師の追加。（教授9、准教授7、講師2⇒教授10、准教授10、講師1）

・Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラムについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の森俊樹教授、中島基宏准教授、渡邊和典准教授、松浦康之講師の追加。（教授9、准教授8、講師2⇒教授10、准教授11、講師1）。

・Introduction to Project Based Learning/課題解決入門、Project Based Learning ExerciseⅡ/問題解決演習Ⅱについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の森俊樹教授、中島基宏准教授、渡邊和典准教授、松浦康之講師の追加。（教授9、准教授9、講師2⇒教授11、准教授12、講師1）

・Project Based Learning ExerciseⅠA/課題解決演習ⅠA, Project Based Learning ExerciseⅠB/課題解決演習ⅠBについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の森俊樹教授、中島基宏准教授、渡邊和典准教授、松浦康之講師の追加。（教授9、准教授9、講師2、兼3⇒教授11、准教授12、講師1、兼5）

・Degree Project/卒業プロジェクトについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の森俊樹教授、中島基宏准教授、渡邊和典准教授、松浦康之講師の追加。（教授9、准教授9、講師2⇒教授11、准教授12、講師1）

<開講クォーター変更理由>

【アカデミックリーディング】

【アカデミックライティング】

【コミュニケーションイングリッシュ】

【カレントイングリッシュ】

【プレゼンテーションイングリッシュ】

→令和4年度にできる限り履修登録者を1つのクラスに集中させ、また、秋入学生も一緒に履修させることでディスカッション等における教育効果の向上をにらみ、③又は④のみの開講として変更したが、在学生が増加し、できる限り学生の履修時期に関する選択可能性を高めるため、開講クラス数を増やし、いずれの科目も③・④の開講とした。

【情報発信技法】

・①・③の開講予定であったが、同科目を担当する専任教員の担当クラスが③・④に集中するため、教育の質を考慮し、①・②として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【哲学・倫理学】

・③・④の開講予定であったが、2022年10月に着任した哲学・倫理学分野の専任教員が、③・④に多くのクラスを担当するため、教育の質を考慮し、①・②として変更した。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【経営戦略・組織論】

・③・④の開講予定であったが、兼任教員の都合により、②とした。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【マーケティング論】

・②・③の開講予定であったが、兼任教員の都合により、①とした。なお、選択科目であり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【都市環境論】

・②の開講予定であったが、学生の現状の理解度を考慮し、都市環境論を学んだ後に環境工学を学ぶ流れがより学生の理解が高まると考え、①とした。

【環境工学】

・①・③の開講予定であったが、上記「都市環境論」との関連の中で、学生の理解度を高めるための履修順を考慮し、②とした。

【令和6年度】

- ・Reading English I/リーディング英語I、Reading English II/リーディング英語IIについて、教育の質の維持・向上に鑑み、Kolak Stephan John兼任講師から、Urszula Maria Styczek Boyode兼任講師に担当者変更。（兼⇒兼）
- ・(実技英語科目：教授2、准教授2、兼5)
- ・Data Visualization/データ可視化法について、データサイエンス科目の充実及び負担軽減を図るため、専任教員の笠島めぐみ講師を採用し、担当科目を見直したうえで、森教授から、令和6年4月着任の専任教員である笠島めぐみ講師（令和6年2月教員審査済み）に担当者変更。（教授1⇒講師1）
- ・Practical Data Science/データサイエンス実践論について、データサイエンス科目の充実及び負担軽減を図るため、専任教員の笠島めぐみ講師を採用し、担当科目を見直したうえで、森教授から、令和6年4月着任の専任教員である笠島めぐみ講師（令和6年2月教員審査済み）に担当者変更。（教授1⇒講師1）
- ・Introduction to Mathematics/数学入門について、河本直紀兼任講師と青木由香利兼任講師の分担から、青木由香利兼任講師のみの担当に変更した。青木兼任講師は、令和5年度から同科目を担当しており、教育上の支障は無い。（兼2⇒兼1）
- ・Introduction to Health Science/健康学入門について、授業の実施状況及び教育の質の維持・向上に鑑みて、齋藤一彦兼任講師、柴山慧兼任講師、白石智也兼任講師の3名体制から、齋藤一彦兼任講師、柴山慧兼任講師の2名体制に変更した。（兼3⇒兼2）
- ・Introduction to Business Administration/経営学概論、Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論については、専任教員が就任辞退。後任の専任教員の選考を実施したものの、適任者該当なし。後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置。令和5年10月に専任教員の鄭雅方講師が着任し（令和5年5月教員審査済み）、担当者を変更。
- ・Marketing Theory/マーケティング論について、教育上の質の維持・向上に鑑み、岡田浩一兼任講師に代わり、大藤洋子兼任講師に担当者変更。（兼1⇒兼1）
- ・Development Economics/開発経済学について、教育上の質の維持・向上に鑑み、李 翠盈兼任講師から、森朋也兼任講師及びPERLAKY Denes兼任講師に担当者変更。（兼1⇒兼2）
- ・Domestics Volunteer Program/国内ボランティア、Domestic Internship ProgramA/国内インターンシップA、Domestic Internship ProgramB/国内インターンシップBについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の鄭雅方講師、笠島めぐみ講師の追加。（教授11、准教授11、講師1⇒教授11、准教授11、講師3）
- ・Volunteer Abroad Program/海外ボランティア、Internship Abroad Program/海外インターンシップは、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の鄭雅方講師、笠島めぐみ講師の追加。（教授10、准教授10、講師1⇒教授10、准教授10、講師3）
- ・Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラムについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の鄭雅方講師、笠島めぐみ講師の追加。（教授10、准教授11、講師1⇒教授10、准教授11、講師3）。
- ・Introduction to Project Based Learning/課題解決入門、Project Based Learning Exercise II/問題解決演習IIについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の鄭雅方講師、笠島めぐみ講師の追加。（教授11、准教授12、講師1⇒教授11、准教授12、講師3）
- ・Project Based Learning Exercise I A/課題解決演習 I Aについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の鄭雅方講師、笠島めぐみ講師の追加。（教授11、准教授12、講師1、兼4⇒教授11、准教授12、講師3、兼2）
- ・Project Based Learning Exercise I B/課題解決演習 I Bについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の鄭雅方講師、笠島めぐみ講師の追加。また、教育の質の向上に鑑み、元木昭宏兼任講師、日野原美咲兼任講師から、佐久間航希兼任講師、上別府隆男兼任講師に担当者変更。（教授11、准教授12、講師1、兼4⇒教授11、准教授12、講師3、兼2）
- ・Degree Project/卒業プロジェクトについては、専任教員の就任辞退に関わる後任の専任教員補充及び教育の質の維持・向上に鑑みた新規採用の鄭雅方講師、笠島めぐみ講師の追加の追加。（教授11、准教授12、講師1⇒教授11、准教授12、講師3）

＜開講クォーター変更理由＞

- 【アカデミックリーディング】
- 【アカデミックライティング】
- 【コミュニケーションリッシュ】
- 【カレントイングリッシュ】
- 【プレゼンテーションイングリッシュ】

→学生の履修時期に関する選択可能性を高めるため、開講クラス数を増やし、いずれの科目も③・④の開講とした。

- 【データサイエンス概論A】
- ・①の開講予定であったが、他のICT／データサイエンス科目に繋がる重要な必修科目であることから、開講クォーターの履修時期可能性を広げて学生が履修しやすくなるため、②にも開講することとした。
- 【ウェブプログラミングとアプリ開発】
- ・①③の開講予定であったが、同科目はシラバス上、課題解決演習科目との連動について記載しており、課題解決演習科目を履修した上で本科目を受講推奨する意図から、③・④として変更した。（学生は、①又は②に必修科目として課題解決演習1Aを履修するため）。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【情報発信技法】

- ・①・③の開講予定であったが、IoTの基礎理解を趣旨とする科目であることを踏まえ、次の科目への接続や教育効果の観点等により、①・②として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【IoT利用による問題解決】
- ・②・④の開講予定であったが、履修者数の状況から④のみとして変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。
- 【データサイエンス概論B】
- ・②・④の開講予定であったが、「データサイエンス概論A」との連続性を考慮し、④として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【データ分析と統計モデリング】

- ・①・③の開講予定であったが、「データサイエンス概論A」との連続性を考慮し、③・④として変更した。選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【データ可視化法】
- ・②・④の開講予定であったが、「データサイエンス概論A」との連続性を考慮し、③として変更した。選択科目の一つであり、科目の体系性に影響はない。

【データサイエンス実践論】

- ・②・④の開講予定であったが、履修者数の状況から、④として変更した。選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【AIビジネス活用論】
- ・②・④の開講予定であったが、履修者数の状況から、②として変更した。選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【ロジカルシンキング】

- ・③の開講予定であったが、必修科目における開講時期の平準化により、学生の負担を減らす観点から、④として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【デザイン思考・システム思考】
- ・④の開講予定であったが、同科目は問題発見や問題発見するために必要なスキルを養う基盤的な必修科目のため、開講クォーターの履修時期可能性を広げて学生が履修しやすくなるため、③・④に2クラスずつ分けて配置することとした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【プロジェクトマネジメント】

- ・①・③の開講予定であったが、履修者数の状況から④のみとして変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【ファシリテーション】
- ・②・④の開講予定であったが、履修者数の状況から①のみとして変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【日本語アカデミックライティング】

- ・①・②・③・④の開講予定であったが、履修者数の状況から①・②のみとして変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【芸術・文学入門】
- ・③・④の開講予定であったが、同科目は美術館等へのフィールドワークを含む科目であることを考慮し、イベント等に参加しやすい③のみとして変更した。

【哲学・倫理学入門】

- ・③・④の開講予定であったが、必修科目における開講時期の平準化により、学生の負担を減らす観点から、③のみとして変更した。

- 【経済学入門】
- ・③・④の開講予定であったが、必修科目における開講時期の平準化により、学生の負担を減らす観点から、③として変更した。

【環境学入門】

- ・③・④の開講予定であったが、必修科目における開講時期の平準化により、学生の負担を減らす観点から、④として変更した。

- 【科学技術倫理入門】
- ・③・④の開講予定であったが、必修科目における開講時期の平準化により、学生の負担を減らす観点から、④として変更した。

【数学入門】

- ・②・④の開講予定であったが、①・②に開講するデータサイエンス概論Aの直前に開講することで、教育効果を高めるため、④として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【健康学入門】
- ・②③の開講予定であったが、実技を含めた科目であり、学生に対して県立広島大学体育館への移動の負担が生じることから、学生が履修しやすい集中講義とした。また、グループで実技を行うにあたり、日本語・英語2クラスを合同で実施することによる教育効果の向上をにらみ、12月（③のみ）の集中講義として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【心理学概論】

- ・①・③の開講予定であったが、心理学の基礎理解を趣旨とする科目であることを踏まえ、次の科目への接続や教育効果の観点等により、①として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【宗教と歴史】
- ・①・③の開講予定であったが、履修者数の状況から、③とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【経営学概論】

- ・①・③の開講予定であったが、③・④に開講する「経営戦略・組織論」よりも先に又は同時期の履修を推奨する意図から、①・②に変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【国際協力・安全保障概論】
- ・②・③の開講予定であったが、基盤科目のひとつであることを考慮し、学生が早い段階で履修しやすくなるため、①として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【社会学概論】

- ・②・④の開講予定であったが、基盤科目であることを考慮し、可能な限り早期に履修することを推奨するため、1クラス分のみ①に配置し、①・④として開講することとした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【人工知能概論】
- ・②・④の開講予定であったが、履修者数の状況から、③のみとした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【数学的思考法】

- ・②・④の開講予定であったが、基盤科目のひとつであることを考慮し、学生が早い段階で履修しやすくなるため、①・③とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【哲学・倫理学】

- ・①・③の開講予定であったが、同分野の基礎科目である「哲学・倫理学入門」からの連続性を考慮し、①・②として変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【多文化共生社会論】
- ・①・③の開講予定であったが、履修者数の状況から、③のみとして変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【メディア論】

- ・②・④の開講予定であったが履修者数の状況から、②とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【日本文化論】
- ・②・④の開講予定であったが、担当授業のテーマとして日本の祭事で上演される郷土芸能等について取り上げることから、教育効果の向上をにらみ、夏季休期中を含めて授業外でフィールドワーク等に参加しやすい②へ変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【異文化論】

- ・②④の開講予定であったが、多くの学生にとつての自国文化にあたる「日本文化論」の履修後に「異文化論」を履修させることが教育効果の向上に望ましいと判断し、④のみへ変更した。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【公共経営論】
- ・①・③の開講予定であったが、履修者数の状況から、クォーター毎のバランスをとるため、①とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【地域協働論】

- ・②・④の開講予定であったが、同科目は、地域協働政策について、特に日本における現状を理解するための科目であるため、可能な限り早期の履修を推奨するため、①・②とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【認知科学概論】
- ・①・③の開講予定であったが、心理学概論、社会心理学概論の受講後に履修することを推奨するため、④とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【公共芸術論】

- ・②・④の開講予定であったが、アートマネジメントを学ぶ同科目の特徴を考慮し、美術館等のイベントに参加しやすい③・④とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【社会心理学概論】
- ・②・④の開講予定であったが、①に開講する心理学概論の後、認知科学概論の前に履修するのが望ましいことから、②・③とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【経営戦略・組織論】

- ・①・③の開講予定であったが、経営学概論の後又は同時期に履修を推奨するため、②とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【マーケティング論】
- ・①・③の開講予定であったが、経営学概論の後又は同時期に履修を推奨するため、②とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【ファイナンス論】

- ・①・③の開講予定であったが、主に英語版の科目について、日本の金融事情をベースとした授業を展開することから、海外から入学する秋入学生ができる限り理解しやすいよう、入学後1年が経過する年度の後半で開講するため、③・④とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【社会起業家論】
- ・②・④の開講予定であったが、「経営学概論」「マーケティング論」「経営戦略・組織論」の後に履修を推奨するため、③・④とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【社会経済システム論】

- ・②・④の開講予定であったが、「経営学概論」の後に履修を推奨するため、③とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【産業・ビジネスモデル論】
- ・②・④の開講予定であったが、履修者数の状況から、④とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【バイオテクノロジー論】

- ・①・③の開講予定であったが、履修者数の状況から、①のみとした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【科学技術史】
- ・②・④の開講予定であったが、原子力と放射線に関する事項を学ぶため、広島平和記念資料館を訪問しやすい時期を考慮し、①・②とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【文化人類学概論】

- ・①・③の開講予定であったが、「フィールドワーク研究」の後に履修を推奨するため、③・④とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【フィールドワーク研究】
- ・②・④の開講予定であったが、「文化人類学概論」の前に履修を推奨するため、①・②とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【環境経済学】

- ・①・③の開講予定であったが、履修者数の状況から、②のみとした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【地域活性論】
- ・②・④の開講予定であったが、同科目の地域課題の発見、分析、解決策を検討する科目であるという特色を考慮し、他科目の履修・修得後の履修を推奨するため、③・④とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【都市環境論】

- ・①・③の開講予定であったが、履修者数の状況から、①のみとした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【環境工学】
- ・①・③の開講予定であったが、履修者数の状況から、②のみとした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【生物多様性論】

- ・②・④の開講予定であったが、「生態学」からの連続性を考慮し、③・④とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

- 【地球環境論】
- ・②・④の開講予定であったが、地球環境問題を理解するために基盤となる地球科学や物理学の基礎的知識を身につけるための授業であることを考慮し、早期の履修を推奨するため、①・②とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

【生態学】

- ・②・④の開講予定であったが、履修者数の状況から、②とした。なお、選択科目の一つであり、教育の質や科目の体系性に影響はない。

（注） 2（1）① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、

授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。

変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。

不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（A）	必修	選択	自由	計	
18 科目	80 科目	0 科目	98 科目	18 科目 []	80 科目 []	 科目 []	98 科目 []	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{0}{98} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	県立広島大学（必要面積23,000㎡）と共用 （運動場までの所要時間：バス30分、徒歩5分、距離：6.5km）			
	校 舎 敷 地	2,193㎡	1,030㎡	135,032㎡	138,255㎡				
	運動場用地	0㎡	5,729㎡	39,875㎡	45,604㎡				
	小 計	2,193㎡	6,759㎡	174,907㎡	183,859㎡				
	そ の 他	0㎡	2,022㎡	119,835㎡	121,857㎡				
	合 計	2,193㎡	8,781㎡	294,742㎡	305,716㎡				
(2)校舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	県立広島大学（必要面積23,000㎡）と共用			
		8,677㎡ （ 8,677㎡ ）	3,333㎡ （ 3,333㎡ ）	83,473㎡ （ 83,473㎡ ）	95,483㎡ （ 95,483㎡ ）				
(3)教室等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		16室	1室	室 （補助職員 人）	室 （補助職員 人）	室 （補助職員 人）			
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数		専任教員の新規 採用のため（５）		
		ソーシャルシステムデザイン学部 ソーシャルシステムデザイン学科			27 26 室				
図書・設備	(5)	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	県立広島大学広島キャンパス共用分を含む 図書36,000冊〔0冊〕 左記以外に、年間利用型電子図書（外国書）14万タイトル及び電子ジャーナルデータベース（外国書）18,900タイトルを利用する。 機械・器具の点数の増は、開学時までに確定した対象の部屋、AV機器、残置品等について、精緻に再集計をしたためである。（3） 図書・学術雑誌について、申請時に予定していた冊数の一部の納品が間に合っていないため、学年完成時までに予定冊数まで購入できるよう鋭意準備を進めている。開講科目に係る書籍は一通り揃っており、現時点では学生の教育に支障はない。（3） 令和３年度末にて、ほぼ予定冊数の購入を完了しており、引き続き必要図書の調達を行う。（４） 視聴覚資料の当初の計画点数が８０に対して、３２点へと変更した。理由としては、購入したデータベース（Academic OneFile）に６４７の視聴覚資料が含まれているため、実質としては８０点を超える視聴覚資料を利用できる状況にあるため。（４） 図書は、学年進行に合わせて、開講科目の参考図書や、教員の研究に資する図書を購入した。ただし、外国書は精査した数に訂正した。 学術雑誌（電子ジャーナル）は、利用状況に応じて見直しを行った。（５） 機械・器具についても、計画的に購入している。（５） 学術雑誌については、分類を精査し、新聞等を除いた数値とした。外国書については、外国出版社の学術雑誌の数値とした。 電子ジャーナルについては、分類を精査し、外国書については、外国出版社の電子ジャーナルの数値とした。（６） 視聴覚資料については、完成年度の整備点数として精査し修正する。なお、令和３年に購入したデータベースに647の視聴覚資料が含まれており教育研究に支障はない。（６） 機械・器具についても、計画的に購入している。（６）
	ソーシャルシステムデザイン学部	47,318〔6,270〕 42,600〔3,250〕	38〔11〕 48〔18〕	11〔4〕 7〔7〕	30 32 80	3,819 3,798 3,706 1,662	0		
	計	47,318〔6,270〕 42,600〔3,250〕	38〔11〕 48〔18〕	11〔4〕 7〔7〕	30 32 80	3,819 3,798 3,706 1,662	0		

(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		3, 575㎡		333		273, 111			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				県立広島大学広島キャンパス体育館の共用（所要時間：バス20分、徒歩5分、距離：6.5km）	
		1, 948㎡		—		—			
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書購入費は、電子ジャーナルの整備費（運用費）は含むが、年間利用型電子図書利用料、電子ジャーナルデータベース利用料及びオンラインデータベース利用料を除く額。 ・教員1人当たり研究費、共同研究費等、の差額については、法人予算の関係上、減額となった。(4) ・（開設前年度）図書購入費、（開設前年度）設備購入費は、昨年度の5月提出時点での未確定部分があり、令和2年度決算を踏まえ確定部分を反映した。(4) ・図書購入費の見積額と実績額との差額は、納品遅延のため年度内納品とならなかったため、及び予定より安価で購入できたためであるが、この納品遅延による、教育上の支障はない。(4) ・開設前年度の設備購入費の見積額と実績額との差額は、予定より安価で購入できたためである。(4) ・開設年度の設備購入費の見積額と実績額との差額は、教育の充実のための必要設備の追加購入によるものである。(4) ・完成年度の教員1人当たり研究費等の差額については、法人予算の関係上、減額となることが決定している。一方で、研究活動の活性化を促進することを目的とした支援制度を導入しているため、教育・研究の推進に支障はない。(5) (6)
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等	400千円 500千円	380千円 500千円	図書購入費	30, 055千円 37, 433千円	22, 935千円 30, 878千円	5, 000千円	
		共 同 研 究 費 等	4, 016千円 5, 000千円	5, 000千円	設備購入費	204, 999千円 207, 618千円	125, 756千円 100, 000千円	5, 000千円	
	学生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
		818千円 931千円	536千円 536千円	536千円 536千円	536千円 536千円	— 千円	— 千円		
	学生納付金以外の維持方法の概要			広島県からの運営費交付金等					

- （注）・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA C対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（6）」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において **赤字で見え消し**した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	〇 〇 大 学									収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考		
ソーシャルシステムデザイン学部	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度				
ソーシャルシステムデザイン学科	4	100	0	400	学士(学術)	0.85	－	－	令和3	広島県広島市中区鞆町1-5	その他の学期（秋季入学）は、5月1日現在では未確定のため、令和5年度の入学定員超過率、平均入学定員超過率及び収容定員充足率は、令和5年度春季入学までの入学定員と入学者数及び学生数により算出した。		

（注）・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。

- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「－」とした上で、「非表示」設定としてください。
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
- ・本年度ＡＣの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
- ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
- ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
- ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
- ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
- ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

＜ソーシャルシステムデザイン学部 ソーシャルシステムデザイン学科＞

(1) 一① 担当教員表

[illegible]

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	イカワ マサノブ 石川 雅紀 (67) <令和3年4月> 工学博士									
		Introduction to Economics/経済学入門 Industry and Business Model/ 産業・ビジネスモデル論 Environmental Economics/環境経済学									
専	教授	サゲ ハル マサキ 下ケ橋 雅樹 (53) <令和3年4月> 博士(工学)	専	教授	サゲ ハル マサキ 下ケ橋 雅樹 (53) <令和3年4月> 博士(工学)	専	教授	サゲ ハル マサキ 下ケ橋 雅樹 (54) <令和3年4月> 博士(工学)	専	教授	サゲ ハル マサキ 下ケ橋 雅樹 (55) <令和3年4月> 博士(工学)
		Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Environmental Studies/環境学入門 Urban Environment/都市環境論 Environmental Engineering/環境工学			Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Environmental Studies/環境学入門 Urban Environment/都市環境論 Environmental Engineering/環境工学			Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Environmental Studies/環境学入門 Urban Environment/都市環境論 Environmental Engineering/環境工学			Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Environmental Studies/環境学入門 Urban Environment/都市環境論 Environmental Engineering/環境工学
専	教授	カサセ サトシ 河瀬 諭 (45) <令和4年4月> 博士(人間科学)									
		Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Psychology/心理学概論 Introduction to Cognitive Science/認知科学概論									
専	教授	タカハシ スミ 高橋 司江 (58) <令和3年4月> 法学士									
		Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Peace Studies/平和論 Introduction to International Cooperation and Security/国際協力・安全保障概論※ Legal Mind/法的思考									
専	教授	ペトコヴァ ガリャ トドローヴァ PETKOVA GALIA TODOROVA (50) <令和3年4月> PhD in Japanese studies (英国)	専	教授	ペトコヴァ ガリャ トドローヴァ PETKOVA GALIA TODOROVA (50) <令和3年4月> PhD in Japanese studies (英国)	専	教授	ペトコヴァ ガリャ トドローヴァ PETKOVA GALIA TODOROVA (51) <令和3年4月> PhD in Japanese studies (英国)	専	教授	ペトコヴァ ガリャ トドローヴァ PETKOVA GALIA TODOROVA (52) <令和3年4月> PhD in Japanese studies (英国)
		Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Art and Literature/芸術・文学入門 Japanese Culture Studies/日本文化論 Cross-Cultural Studies/異文化論			Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Art and Literature/芸術・文学入門 Japanese Culture Studies/日本文化論 Cross-Cultural Studies/異文化論			Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Art and Literature/芸術・文学入門 Japanese Culture Studies/日本文化論 Cross-Cultural Studies/異文化論			Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Art and Literature/芸術・文学入門 Japanese Culture Studies/日本文化論 Cross-Cultural Studies/異文化論
専	教授	カワムラタ ユキヲ 瓜生原 葉子 (55) <令和3年4月> 博士(経営学)									
		Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Business Administration/経営学概論 Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論 Marketing Theory/マーケティング論 Healthcare Services/ヘルスケアサービス論 Introduction to Social Psychology/社会心理学概論※									

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	モナカ シズマイ Monika Szirmai (60) <令和3年4月> Doctor of Philosophy in Linguistic Science (ハンガリー)
		Listening English I/リスニング英語 I Speaking English I/スピーキング英語 I Listening English II/リスニング英語 II Speaking English II/スピーキング英語 II
兼任	講師	タニト ヒデユキ 谷本 秀康 (70) <令和3年4月> 博士(文学)
		Writing English I/ライティング英語 I Reading English I/リーディング英語 I Writing English II/ライティング英語 II Reading English II/リーディング英語 II
兼任	講師	アラン ジョン アスケル Aran John Askell (43) <令和3年4月> Master of Politics and Economics (英国)
		Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎 I Basic English Presentation II/プレゼンテーション英語基礎 II Academic Reading/アカデミックリーディング
兼任	講師	キャロライン ジェーン ロイド Caroline Jane Lloyd (57) <令和3年4月> Master of Japanese Studies (英国)
		Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎 I Basic English Presentation II/プレゼンテーション英語基礎 II Academic Writing/アカデミックライティング
兼任	講師	クゼン ルクスンドラ Gusen Ruxandra (36) <令和3年4月> Bachelor in English Language and Literature (ルーマニア)
		Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎 I Basic English Presentation II/プレゼンテーション英語基礎 II Communicative English/コミュニケーション英語リッシュ
兼任	講師	エドワード コパーハウランド Edward Cooper Howland (38) <令和3年4月> Master of TESOL (米国)
		Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎 I Basic English Presentation II/プレゼンテーション英語基礎 II Current English/カレントイングリッシュ
兼任	講師	ジネット ミ 吉本 由美 (54) <令和3年4月> Master of Arts in Anthropology (英国)
		Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎 I Basic English Presentation II/プレゼンテーション英語基礎 II Presentation English/プレゼンテーションイングリッシュ Japanese I/日本語 I Japanese II/日本語 II Japanese IV/日本語 IV Japanese V/日本語 V
兼任	講師	シゲタ シンジ 重丸 伸二 (46) <令和3年4月> 博士(経営情報学)
		Introduction to ICT/ICT入門 Problem Solving with IoT/IoT利用による問題解決
兼任	講師	ウノ ケン 宇野 健 (51) <令和3年4月> 博士(工学)
		Essential Programing/プログラミング入門 Web Programming and Application Development/ ウェブプログラミングとアプリ開発

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	タニト ヒデユキ 谷本 秀康 (71) <令和3年4月> 修士(文学)
		Listening English I/リスニング英語 I Writing English I/ライティング英語 I Reading English I/リーディング英語 I Listening English II/リスニング英語 II Writing English II/ライティング英語 II Reading English II/リーディング英語 II Current English/カレントイングリッシュ
兼任	講師	アラン ジョン アスケル Aran John Askell (43) <令和3年4月> Master of Politics and Economics (英国)
		Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎 I Basic English Presentation II/プレゼンテーション英語基礎 II
兼任	講師	エドワード コパーハウランド Edward Cooper Howland (38) <令和3年4月> Master of TESOL (米国)
		Speaking English I/スピーキング英語 I Speaking English II/スピーキング英語 II
兼任	講師	ジネット ミ 吉本 由美 (54) <令和3年10月> Master of Arts in Anthropology (英国)
		Japanese II/日本語 II Japanese V/日本語 V
兼任	講師	シゲタ シンジ 重丸 伸二 (46) <令和3年10月> 博士(経営情報学)
		Introduction to ICT/ICT入門 Problem Solving with IoT/IoT利用による問題解決
兼任	講師	ウノ ケン 宇野 健 (51) <令和4年1月> 博士(工学)
		Essential Programing/プログラミング入門 Web Programming and Application Development/ ウェブプログラミングとアプリ開発

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	タニト ヒデユキ 谷本 秀康 (72) <令和3年4月> 修士(文学)
		Listening English I/リスニング英語 I Listening English II/リスニング英語 II
兼任	講師	アラン ジョン アスケル Aran John Askell (44) <令和3年4月> Master of Politics and Economics (英国)
		Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎 I Basic English Presentation II/プレゼンテーション英語基礎 II
兼任	講師	クゼン ルクスンドラ Gusen Ruxandra (37) <令和5年4月> Bachelor in English Language and Literature (ルーマニア)
		Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎 I Basic English Presentation II/プレゼンテーション英語基礎 II
兼任	講師	ジネット ミ 吉本 由美 (55) <令和4年10月> Master of Arts in Anthropology (英国)
		Japanese I/日本語 I Japanese II/日本語 II Japanese IV/日本語 IV Japanese V/日本語 V
兼任	講師	材料ニ コウゾウ 大谷 幸三 (49) <令和4年10月> 博士(工学)
		Web Programming and Application Development/ウェブプログラミングとアプリ開発 Problem Solving with IoT/IoT利用による問題解決

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	タニト ヒデユキ 谷本 秀康 (73) <令和3年4月> 修士(文学)
		Listening English I/リスニング英語 I Listening English II/リスニング英語 II
兼任	講師	ジネット ミ 吉本 由美 (55) <令和4年10月> Master of Arts in Anthropology (英国)
		Japanese I/日本語 I Japanese II/日本語 II Japanese IV/日本語 IV Japanese V/日本語 V
兼任	講師	材料ニ コウゾウ 大谷 幸三 (50) <令和4年10月> 博士(工学)
		Web Programming and Application Development/ウェブプログラミングとアプリ開発 Problem Solving with IoT/IoT利用による問題解決

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
		山ノ内 めぐみ 山ノ内 めぐみ (46) <令和6年4月> 博士(医学)
専任	講師	Introduction to Project Based Learning/課題解決入門 Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習 IA Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習 IB Project Based Learning Exercise II/課題解決演習 II Degree Project/卒業プロジェクト Domestic Volunteer Program /国内ボランティア Domestic Internship Program A/国内インターンシップA Domestic Internship Program B/国内インターンシップB Volunteer Abroad Program/海外ボランティア Internship Abroad Program/ 海外インターンシップ Short-Term Study Abroad Program/ 海外短期プログラム Introduction to Data Science A/データサイエンス概論A Introduction to Data Science B/データサイエンス概論B Data Analysis and Statistical modeling/データ分析と統計モデリング Data Visualization/データ可視化法 Practical Data Science/データサイエンス実習 AI and Business Application/AIビジネス活用論 Introduction to Artificial Intelligence/人工知能概論
兼任	講師	タニト ヒデユキ 谷本 秀康 (74) <令和3年4月> 修士(文学)
		Listening English I/リスニング英語 I Listening English II/リスニング英語 II
兼任	講師	ジネット ミ 吉本 由美 (57) <令和4年10月> Master of Arts in Anthropology (英国)
		Japanese I/日本語 I Japanese II/日本語 II Japanese IV/日本語 IV Japanese V/日本語 V
兼任	講師	材料ニ コウゾウ 大谷 幸三 (51) <令和4年10月> 博士(工学)
		Web Programming and Application Development/ウェブプログラミングとアプリ開発 Problem Solving with IoT/IoT利用による問題解決

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	チン ウン 鄭 銀志 (54) <令和3年4月> 博士(学術)
		Religion and History/宗教と歴史
兼任	講師	ハジ マサ 原 章 (47) <令和4年4月> 博士(工学)
		Introduction to Artificial Intelligence/人工知能概論
兼任	講師	トウ マ アキヒ 戸田山 和久 (63) <令和4年4月> 哲学博士
		Introduction to Philosophy of Science/科学哲学概論
兼任	講師	オウ マ ケン 奥山 健二 (78) <令和4年4月> 学術博士
		Public Art/公共芸術論
兼任	講師	カタギ セイジ トシヒコ KATAGI THEODORE TOSHIHIKO (58) <令和4年4月> Masters of Business Administration (米国)
		Marketing Theory/マーケティング論
兼任	講師	カハシ ヨウジ 高橋 陽二 (42) <令和4年4月> 博士(商学)
		Finance/ファイナンス論
兼任	講師	フキ マチ 露木 真也子 (55) <令和4年4月> 博士(学術)
		Social Entrepreneurship/社会起業家論
兼任	講師	リ スエイ 李 翠盈 (30) <令和4年4月> 修士(学術)
		Development Economics/開発経済学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	ハジ マサ 原 章 (46) <令和4年4月> 博士(工学)
		Introduction to Artificial Intelligence/人工知能概論
兼任	講師	トウ マ アキヒ 戸田山 和久 (63) <令和4年4月> 哲学博士
		Introduction to Philosophy of Science/科学哲学概論
兼任	講師	オウ マ ケン 奥山 健二 (78) <令和4年4月> 学術博士
		Public Art/公共芸術論
兼任	講師	カタギ セイジ トシヒコ KATAGI THEODORE TOSHIHIKO (57) <令和4年4月> Masters of Business Administration (米国)
		Marketing Theory/マーケティング論
兼任	講師	カハシ ヨウジ 高橋 陽二 (41) <令和4年4月> 博士(商学)
		Finance/ファイナンス論
兼任	講師	フキ マチ 露木 真也子 (55) <令和4年4月> 博士(学術)
		Social Entrepreneurship/社会起業家論
兼任	講師	リ スエイ 李 翠盈 (29) <令和4年4月> 修士(学術)
		Development Economics/開発経済学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	コン イ 西井 義雄 (60) <令和4年10月> 博士(学術)
		Religion and History/宗教と歴史
兼任	講師	スギ キ フサヒコ 杉木 恒彦 (53) <令和5年1月> 博士(文学)
		Religion and History/宗教と歴史
兼任	講師	トウ マ アキヒ 戸田山 和久 (64) <令和4年6月> 哲学博士
		Introduction to Philosophy of Science/科学哲学概論
兼任	講師	コウノ ヒトミ 香村 ひとみ (36) <令和4年10月> 学士(造形)
		Public Art/公共芸術論
兼任	講師	エト カエ 江戸 克栄 (53) <令和4年7月> 修士(商学)
		Marketing Theory/マーケティング論
兼任	講師	フキ マチ 露木 真也子 (55) <令和4年10月> 博士(学術)
		Social Entrepreneurship/社会起業家論
兼任	講師	アハメド アシール Ahmed Ashir (51) <令和4年10月> 博士(情報科学)
		Social Entrepreneurship/社会起業家論
兼任	講師	リ スエイ 李 翠盈 (30) <令和4年4月> 修士(学術)
		Development Economics/開発経済学 Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習1A Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習1B

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	スギ キ フサヒコ 杉木 恒彦 (53) <令和5年1月> 博士(文学)
		Religion and History/宗教と歴史
兼任	講師	トウ マ アキヒ 戸田山 和久 (64) <令和4年6月> 哲学博士
		Introduction to Philosophy of Science/科学哲学概論
兼任	講師	コウノ ヒトミ 香村 ひとみ (36) <令和4年10月> 学士(造形)
		Public Art/公共芸術論
兼任	講師	オウ マ コウイチ 岡田 浩一 (62) <令和5年4月> MBA(経営学修士)
		Marketing Theory/マーケティング論
兼任	講師	フキ マチ 露木 真也子 (56) <令和4年10月> 博士(学術)
		Social Entrepreneurship/社会起業家論
兼任	講師	ヤング ミコハタ マリコ ヤング 吉原 麻里子 (56) <令和6年2月> 博士(政治学)
		Social Entrepreneurship/社会起業家論
兼任	講師	リ スエイ 李 翠盈 (31) <令和4年4月> 修士(学術)
		Development Economics/開発経済学 Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習1A

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	スギ キ フサヒコ 杉木 恒彦 (54) <令和5年1月> 博士(文学)
		Religion and History/宗教と歴史
兼任	講師	トウ マ アキヒ 戸田山 和久 (65) <令和4年6月> 哲学博士
		Introduction to Philosophy of Science/科学哲学概論
兼任	講師	コウノ ヒトミ 香村 ひとみ (37) <令和4年10月> 学士(造形)
		Public Art/公共芸術論
兼任	講師	フキ マチ 露木 真也子 (57) <令和4年10月> 博士(学術)
		Social Entrepreneurship/社会起業家論
兼任	講師	ヤング ミコハタ マリコ ヤング 吉原 麻里子 (57) <令和6年2月> 博士(政治学)
		Social Entrepreneurship/社会起業家論

専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	川崎 千枝見 (45) <令和3年4月> 修士(教育学)									
		Japanese III/日本語Ⅲ Japanese V/日本語Ⅴ Japanese VI/日本語Ⅵ									
			兼任	講師	橋本 優香 (47) <令和3年10月> 日本語教育学(修士)	兼任	講師	橋本 優香 (48) <令和3年10月> 日本語教育学(修士)	兼任	講師	橋本 優香 (50) <令和3年10月> 日本語教育学(修士)
					Japanese I/日本語Ⅰ JapaneseⅢ/日本語Ⅲ JapaneseⅣ/日本語Ⅳ JapaneseⅥ/日本語Ⅵ			JapaneseⅢ/日本語Ⅲ JapaneseⅥ/日本語Ⅵ			JapaneseⅢ/日本語Ⅲ JapaneseⅥ/日本語Ⅵ
			兼任	講師	Reochei Rose Mora (23) <令和3年4月> B.A.in East Asian Studies(学士)						
					Listening EnglishⅠ/リスニング英語Ⅰ Listening EnglishⅡ/リスニング英語Ⅱ						
			兼任	講師	Melinda Elakes (34) <令和3年4月> Applied Modern Languages, English Major(学士)	兼任	講師	Melinda Elakes (35) <令和3年4月> Applied Modern Languages, English Major(学士)			
					Reading EnglishⅠ/リーディング英語Ⅰ Reading EnglishⅡ/リーディング英語Ⅱ Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱ			Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱ			
			兼任	講師	Gladys Barbara Javier Ego-ugan (44) <令和3年4月> University of the Philippines Post Graduate Diploma in Language & Literacy Education(学士)						
					Reading EnglishⅠ/リーディング英語Ⅰ Reading EnglishⅡ/リーディング英語Ⅱ Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱ						
			兼任	講師	Michael Geoffrey Davenport (29) <令和3年4月> 現代音楽教育(学士)	兼任	講師	Michael Geoffrey Davenport (30) <令和3年4月> 現代音楽教育(学士)			
					Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱ			Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱ			
			兼任	講師	Andre Salgueiro (31) <令和3年4月> B.A.in Psychology(学士)	兼任	講師	Andre Salgueiro (32) <令和3年4月> B.A.in Psychology(学士)			
					Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱ			Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱ			
			兼任	講師	川瀬 真紀 (54) <令和3年10月> Doctor of Philosophy in work, Community, and Family Eduoation(博士)						
					Design Thinking, System Thinking/デザイン思考 システム思考						
			兼任	講師	Christopher Morgan Johnson (41) <令和4年1月> Ph.D., Philosophy Faculty of Graduate Studies & Research (Department of Philosophy) (カナダ)						
					Introduction to Philosophy and Ethics/哲学・倫理学入門 Logical Thinking/ロジカルシンキング						
			兼任	講師	西井 義徳 (59) <令和4年1月> 博士(学術)						
					Introduction to Philosophy and Ethics/哲学・倫理学入門						
						兼任	講師	七田 良彦 (69) <令和4年4月> 学士(経済学)			
								Introduction to Business Administration/経営学概論			
						兼任	講師	瓜生原 素子 (56) <令和4年4月> 博士(経営学)			
								Healthcare Services/ヘルスケアサービス論			
			兼任	講師	喜多島 知穂 (34) <令和4年10月> 修士(公衆衛生学)	兼任	講師	喜多島 知穂 (34) <令和4年10月> 修士(公衆衛生学)	兼任	講師	喜多島 知穂 (35) <令和4年10月> 修士(公衆衛生学)
					Healthcare Services/ヘルスケアサービス論			Healthcare Services/ヘルスケアサービス論			Healthcare Services/ヘルスケアサービス論
			兼任	講師	白久 始 (52) <令和4年6月> 博士(認知科学)	兼任	講師				
					Introduction to Psychology/心理学概論 Introduction to Cognitive Science/認知科学概論						
			兼任	講師	齊藤 萌木 (39) <令和4年6月> 博士(教育学)						
					Introduction to Cognitive Science/認知科学概論						

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
									兼任	講師	佐久間 航希 (31) <令和6年4月> 修士(生命科学)
											Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習1B
									兼任	講師	上別府 隆男 (64) <令和6年4月> Ph.D. in Education Policy, Planning and Administration (米国)
											Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習1B

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。

その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。

- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の歳年齢を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実外)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目名を記入してください。

(1) ー②担当教員表に関する変更内容

【令和元年度】

--

【令和2年度】

--

【令和3年度】

・有信睦弘学長は、認可時に採用根拠を公立大学法人県立広島大学就業規則第20条第2項の規定に基づく公立大学法人県立広島大学職員の定年の特例に関する規程を適用していたが、法人理事に就任したため、採用根拠は広島県公立大学法人定款第8条を適用し、定年なしに修正。 ・笠木雅史教授予定者、やむを得ない事情から就任辞退。就任辞退の申し出を受け、直ちに後任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた。今後は速やかに採用手続きに入る予定。令和3年10月の授業開始前の就任のため、教育上の支障なし。 ・石村源生教授予定者、やむを得ない事情から就任辞退。就任の辞退の申し出を受け、直ちに後任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた。今後は速やかに採用手続きに入る予定。令和3年10月の授業開始前の就任のため、教育上の支障なし。 ・石川雅紀教授の専任教員としての就任年月について、大学の管理・運營業務に携わるため、令和5年4月から令和3年4月に変更。 ・高須司江教授予定者、やむを得ない事情から就任辞退。就任の辞退の申し出を受け、直ちに後任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた（後任教員2名）。今後は速やかに採用手続きに入る予定。令和3年10月の授業開始前の就任のため、教育上の支障なし。 ・瓜生原葉子教授予定者の就任年月について、現勤務先の大学の教育上のやむを得ない事情から令和3年4月から令和4年4月に就任年月を変更。科目開講（及び担当）前の就任であるため、教育上の支障なし。 ・RAFIEYAN VAHID(ラフィエヤンヴァヒド)准教授予定者、やむを得ない事情から就任辞退。後任の教員については、令和4年4月の採用に向け、令和3年度中に公募実施予定。担当科目については、当該科目担当の教授が指導体制に責任を持ち、引き続き授業を担当。併せて、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮した兼任教員の変更及び兼任教員を追加・補充する等、学生に支障のないように対応しており、現時点では教育上の支障はない。 具体的な変更状況は下記となる。 ・Monica Szirmoi兼任講師の担当授業科目であるListening English I /リスニング英語Ⅰ及びListening EnglishⅡ/リスニング英語Ⅱについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮し、谷本秀康兼任講師に当該2科目を追加し、担当者変更。また、Raechel Rose Mora兼任講師を当該2科目の担当者として、追加・補充(Listening EnglishⅡについては夏Q開講)。加えて、Edward Cooper Howland兼任講師にSpeaking English I /スピーキング英語Ⅰ及びSpeaking EnglishⅡ/スピーキング英語Ⅱを追加し、担当者変更。(Speaking EnglishⅡ/スピーキング英語Ⅱについては、夏Q開講) ・谷本秀康兼任講師の認可時の年齢及び学歴に誤記があったため修正した。今後は誤記がないようチェック体制を強化する。 ・Caroline Jane Lloyd兼任講師の担当授業科目であるBasic English Presentation I /プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮してMelinda Elekes兼任講師に担当者変更。また、Academic Reading/アカデミックリーディングは担当しない。 ・Aran John Askell兼任講師はAcademic Reading/アカデミックリーディングを担当しない。 ・Cusen Ruxandra兼任講師の担当授業科目であるBasic English Presentation I /プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮してGladys Barbara Javier Ego-ugan兼任講師に担当者変更。また、Communicative English/コミュニカティブイングリッシュは担当しない。 ・Edward Cooper Howland兼任講師が担当するBasic English Presentation I /プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱ、Current English/カレントイングリッシュについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮してBasic English Presentation I /プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎ⅡはMichael Geoffrey Davenport講師、Current English/カレントイングリッシュは谷本秀康兼任講師に担当者変更。 ・吉本由美兼任講師の担当授業科目であるJapanese I /日本語Ⅰ及びJapaneseⅣ/日本語Ⅳについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮して橋本優香兼任講師に担当者変更。また、科目の開講年月に合わせて就任時期を変更した。 ・吉本由美兼任講師の担当授業科目であるBasic English Presentation I /プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮してAndre Salgueiro兼任講師に担当者変更。 また、Presentation English/プレゼンテーションイングリッシュは担当しない。 ・川崎千枝見兼任講師の担当授業科目であるJapaneseⅢ/日本語Ⅲ、JapaneseⅤ/日本語Ⅴ及びJapaneseⅥ/日本語Ⅵについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮してJapaneseⅤ/日本語Ⅴは吉本由美兼任講師、JapaneseⅢ/日本語Ⅲ及びJapaneseⅥ/日本語Ⅵは橋本優香兼任講師に担当者変更。 ・重丸伸二兼任講師は令和3年4月に就任予定であったが、科目開講年月に合わせて就任時期を変更した。 ・宇野健兼任講師の認可時の年齢に誤記があったため修正した。今後は誤記がないようチェック体制を強化する。また、令和3年4月に就任予定であったが、科目開講の時期に合わせ就任時期を変更した。 ・市村匠兼任講師は令和3年4月に就任予定であったが、科目開講年月に合わせて就任時期を変更した。 ・田村慶一兼任講師は令和3年4月に就任予定であったが、科目開講年月に合わせて就任時期を変更した。 ・鎌田真兼任講師の学位を博士(情報科学)から博士(情報工学)に修正した。今後は誤記がないようチェック体制を強化する。 ・田坂逸朗兼任講師の授業担当科目であるDesign Thinking System Thinking/デザイン思考・システム思考については、教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮して、川瀬真紀兼任講師を追加・補充し、担当者変更。 ・富田哲治兼任講師の認可時の年齢に誤記があったため修正した。今後は誤記がないようチェック体制を強化する。また、令和3年4月に就任予定であったが、科目開講の時期に合わせ就任時期を変更した。 ・鄭銀志兼任講師の認可時の年齢に誤記があったため修正した。今後は誤記がないようチェック体制を強化する。また、令和3年4月に就任予定であったが、科目開講の時期に合わせ就任時期を変更した。 ・教育上の質の維持・向上に鑑みて科目内容、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮して以下の兼任教員を追加・補充する。 ・Raechel Rose Mora兼任講師を追加。 ・Melinda Elekes兼任講師を追加。 ・Gladys Barbara Javier Ego-ugan兼任講師を追加。 ・Michael Geoffrey Davenport兼任講師を追加。 ・Andre Salgueiro兼任講師を追加。 ・川瀬真紀兼任講師を追加。 ・橋本優香兼任講師を追加。

【令和４年度】

・笠木雅史教授予定者の就任辞退を受け、後任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた。しかしながら本人のやむを得ない事情(体調不良)により令和3年10月に就任辞退。直ちに公募・選考を実施したが、当該科目の担当に相応しい適任者が該当せず、再度公募・選考を実施。令和4年6月のAC教員資格審査受審に向けて準備中。

・石村源生教授予定者、やむを得ない事情から就任辞退。就任の辞退の申し出を受け、直ちに後任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められたため、令和3年10月に水島希准教授を採用した。

・高須司江教授予定者、やむを得ない事情から就任辞退。就任の辞退の申し出を受け、直ちに後任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和3年5月28日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた（後任教員2名）。令和3年7月に長岡さくら准教授、令和3年9月に安富淳准教授を採用した。

・瓜生原葉子教授予定者の就任辞退を受け、後任の専任教員の選考を実施したものの、適任者該当なし。後任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を科目担当者として配置。令和4年10月新規採用に向けて、現在選考中。なお、瓜生原葉子教授予定者は令和4年4月から兼任教員として、引き続きヘルスケアサービス論を担当。

・RAFIEYAN VAHID(ラフィエヤンヴァヒド)准教授予定者、やむを得ない事情から就任辞退。直ちに後任教員の公募・選考を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和4年2月17日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められたため、令和4年4月にGeorge Michael Higginbotham准教授を採用した。

・河瀬瀨教授予定者、やむを得ない事情から令和3年10月に就任辞退。就任辞退の申し出を受け、直ちに後任教員の公募を実施し、候補者を選考。現在、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審中である。令和4年4月開講の科目については、兼任講師が担当する。

・データサイエンス科目の教育の充実のため、データサイエンス担当の専任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和4年2月17日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められた。当該森俊樹教授予定者については、現在の職務の都合上令和4年10月採用となるが、令和4年4月開講科目については、兼任講師として担当している。

・教員の共通科目である課題解決演習について、教員への指導や企業との調整を主たる業務とする課題解決演習の専任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和4年2月17日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められたため、令和4年4月に川瀬真紀教授を採用した。

・令和3年5月28日のAC教員審査の結果、早田吉伸准教授の教授への昇任が認められたため、令和3年6月に教授に昇任した。

・谷本秀康兼任講師の担当授業科目であるWriting English I/ライティング英語Ⅰ、Writing EnglishⅡ/ライティング英語Ⅱ、Reading English I/リーディング英語Ⅰ、Reading EnglishⅡ/リーディング英語Ⅱ、Current English/カレントイングリッシュについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて専任講師であるGeorge Michael Higginbotham准教授に担当者変更。

・Edward Cooper Howland兼任講師の担当授業科目であるSpeaking English I/スピーキング英語Ⅰ、Speaking EnglishⅡ/スピーキング英語Ⅱについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて専任講師であるGeorge Michael Higginbotham准教授に担当者変更。

・重丸伸二兼任講師の就任時期を科目開講年月に合わせ、令和3年10月から令和4年10月に変更。あわせて、当該教員のIntroduction to/ ICT入門は、授業実施状況及び教育上の質の維持・向上に鑑みて、教員配置を見直し、担当科目から削除。当該科目は引き続き土本康生准教授の責任指導体制のもと、教育上の支障はない。

・宇野健兼任講師の就任時期を科目開講年月に合わせ、令和4年1月から令和4年10月に変更。あわせて、当該教員のEssential Programing/ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ入門は、授業実施状況及び教育上の質の維持・向上に鑑みて、教員配置を見直し、担当科目から削除。当該科目は引き続き土本康生准教授の責任指導体制のもと、教育上の支障はない。

・Web Programming and Application Development/ウェブプログラミングとアプリ開発、Problem Solving with IoT/IoT利用による問題解決の担当として大谷幸三兼任講師を追加。

・市村匠兼任講師の就任時期を科目開講年月に合わせ、令和4年4月から令和4年10月に変更。また、当該教員のIntroduction to Data ScienceA/データサイエンス概論A、Data Analysis and Statistical modeling/データ分析とモデリング、Data Visualization/データ可視化法、AI and Business Application/AIビジネス活用論は、教育の質の維持・向上に鑑みて令和4年10月に就任予定の森俊樹教授に担当者変更。

・田村慶一兼任講師のIntroduction to Data ScienceB/データサイエンス概論Bは令和4年度未開講とし、また、教育の質の維持・向上に鑑みて、当該科目を令和4年10月に就任予定の専任講師である森俊樹教授予定者に担当者変更。

・鎌田真兼任講師の就任時期を科目開講年月に合わせ、令和4年4月としていたが、担当科目の開講年月を隔年開講に変更し、また、教育上の質の維持・向上に鑑みて、Data Analysis and Statistical modeling/データ分析とモデリング及びData Visualization/データ可視化法を令和4年10月に就任予定の森俊樹教授予定者に担当者変更。

・竹本康彦兼任講師の担当科目であるPractical Data Science/データサイエンス実践論は令和4年度未開講であり、就任せず、また、教育上の質の維持・向上に鑑みて、令和4年10月就任予定の森俊樹教授予定者に担当者変更。

・田坂逸朗兼任講師の就任時期を科目開講年月に合わせ、令和3年10月から令和4年10月に変更。あわせて、当該教員のDesign Thinking, System Thinking/デザイン思考、システム思考については、教育上の質の維持・向上に鑑みて、早田吉伸教授、川瀬真紀教授に担当者変更。また、教育上の質の維持・向上に鑑みて、Project Management/プロジェクトマネジメント、Facilitation/ファシリテーションを担当科目から削除。当該科目は引き続き、瀬古素子講師のみの担当とした責任指導体制のもとでの授業実施のため、教育上の支障はない。

・坪田雄二兼任講師は、令和4年4月に就任予定であったが、科目開講年月に合わせて就任時期を令和4年7月に変更した。

・Introduction to Mathematics/数学入門については、指導体制(より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め)を考慮して、富田哲治兼任講師に加え、河本直紀兼任講師を担当として追加。

・Introduction to Health Science/健康学入門については、指導体制(より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め)を考慮して、辻文兼任講師から齊藤一彦兼任講師、柴山慧兼任講師、白石智也兼任講師に担当者変更。(3名の兼任講師によるオムニバス)

・Religion and History/宗教と歴史については、指導体制(より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め)を考慮して、鄭銀志兼任講師から西井美穂兼任講師に担当者変更。

・原章兼任講師のIntroduction to Artificial Intelligence/人工知能概論については、教育の質の維持・向上に鑑みて、令和4年10月に就任予定の森俊樹教授予定者に担当者変更。

・戸田山和久兼任講師は令和4年4月に就任予定であったが、科目開講年月に合わせて就任時期を令和4年6月に変更した。

・Public Art/公共芸術論については、指導体制(より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め)を考慮して、奥山健二兼任講師から香村ひとみ兼任講師に担当者変更。

・Marketing Theory/マーケティング論については、指導体制(より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め)を考慮して、KATAGI THEODORE TOSHIHIKO兼任講師から江戸克栄兼任講師に担当者変更。

・高橋陽二兼任講師のFinance/ファイナンス論を担当科目から削除。教育上の質の維持・向上に鑑みて、当該科目は引き続き、小野浩二准教授のみの担当とした責任指導体制のもとでの授業実施のため、教育上の支障はない。

・Social Entrepreneurship/社会起業家論については、科目開講時期に併せて露木真也子兼任講師の就任時期を変更。また、教育の質の維持・向上のため、Ahmed Ashir兼任講師を担当者として追加する。

・橋本優香兼任講師の担当科目であるJapanese I/日本語Ⅰ、JapaneseⅥ/日本語Ⅵについては、指導体制(より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め)を考慮して、吉本由美兼任講師に担当者変更。

・Listening English I/リスニング英語Ⅰ、Listening EnglishⅡ/リスニング英語Ⅱについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて、Raechel Rose Mora兼任講師から専任講師であるGeorge Michael Higginbotham准教授に担当者変更。

・Melind Elekes兼任講師が担当する予定であったReading English I/リーディング英語Ⅰ、Reading EnglishⅡ/リーディング英語Ⅱについては、指導体制(より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め)を考慮して、Kolak Stephen John兼任講師に担当者変更。

・Gladys Barbara Javier Ego-ugan兼任講師が担当する予定であったReading English I/リーディング英語Ⅰ、Reading EnglishⅡ/リーディング英語Ⅱについては、教育上の質の維持・向上に鑑みて、George Mchael Higginbotham准教授に担当者変更。また、Basic English Presentation I/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ、Basic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱについては、指導体制(より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め)を考慮して、Cusen Ruxandra兼任講師に担当者変更。

・川瀬真紀兼任教員は令和4年4月から専任教授に変更(令和3年12月教員審査済み)。

・Cristopher Morgan Johnson兼任講師のIntroduction to Philosophy and Ethics/哲学・倫理学入門、Logical Thinking/ロジカルシンキングについては、後任の教員が令和4年6月に教員審査を受審予定である。

・西井美穂兼任講師のIntroduction to Philosophy and Ethics/哲学・倫理学入門については、後任の教員が令和4年6月にAC教員審査を受審予定である。

・七田良彦兼任講師(担当科目: Introduction to Business Administration/経営学概論)を追加。

・瓜生原葉子兼任講師(担当科目: Healthcare Services/ヘルスケアサービス論)を追加。

・白水始兼任講師(担当科目: Introduction to Psychology/心理学概論、Introduction to Cognitive Science/認知科学概論)を追加。

・齊藤萌木兼任講師(担当科目: Introduction to Cognitive Science/認知科学概論)を追加。

・藤木大介兼任講師(担当科目: Introduction to Psychology/心理学概論)を追加。

・松浦康之兼任講師(担当科目: Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習ⅠB)を追加。

・元木明宏兼任講師(担当科目: Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習ⅠA)を追加。

・日野原美咲兼任講師(担当科目: Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習ⅠA、Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習ⅠB)を追加。

・李翠盈兼任講師の担当科目として、Project Based Learning Exercise IA/課題解決演習ⅠA、Project Based Learning Exercise IB/課題解決演習ⅠBを追加。

・Kolak Stephen John兼任講師(担当科目: Reading English I/リーディング英語Ⅰ、Reading EnglishⅡ/リーディング英語Ⅱ、Speaking English I/スピーキング英語Ⅰ、Speaking EnglishⅡ/スピーキング英語Ⅱ)を追加。

【令和５年度】

・笠木雅史教授予定者、やむを得ない事情から就任辞退。就任の辞退の申し出を受け、直ちに後任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和4年8月3日の結果伝達において職位・科目担当の資格が適格と認められたため、令和4年10月に渡邊和典准教授を採用した。

・瓜生原葉子教授予定者の就任辞退を受け、後任の専任教員の選考を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を令和５年３月に受審し、令和５年５月の結果にて職位・科目が適格と認められたため、令和５年10月採用を目指し準備中。

・河瀬諭教授予定者、やむを得ない事情から令和3年10月に就任辞退。就任辞退の申し出を受け、直ちに後任教員の公募・選考を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和4年3月4日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められたため、令和4年10月に中島基宏准教授を採用した。

・データサイエンス科目の教育の充実のため、データサイエンス担当の専任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和4年2月17日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められたため、令和4年10月に森俊樹教授を採用した（兼任講師から専任教授へ変更）。

・教員の共通科目である課題解決演習について、教育の充実に鑑み、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和5年2月3日の結果を受け令和5年4月に松浦康之講師を採用した。（兼任講師から専任講師に変更）。

・令和4年3月4日のAC教員審査の結果、瀬古素子講師の准教授への昇任が認められたため、令和4年6月に准教授に昇任した。

・令和5年2月3日のAC教員審査の結果、BURROWS Christian准教授の教授への昇任が認められたため、令和5年4月に教授に昇任した。

・令和5年2月3日のAC教員審査の結果、KASPAREK Nicholas Ryan講師の准教授への昇任が認められたため、令和5年4月に准教授に昇任した。

・令和5年2月3日のAC教員審査の結果、George Michael Higginbotham准教授の担当科目について、Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱが認められたため、Cusen Ruxandra兼任講師から令和5年4月より担当者変更。

・Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱについて、Michael Geoffrey Davenport兼任講師からSteven Lewis Rosen兼任講師へ令和5年4月より担当者変更。

・Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱについて、Andre Salgueiro兼任講師からUrszula Maria Styczek Boyede兼任講師へ令和5年4月より担当者変更。

・Basic English PresentationⅠ/プレゼンテーション英語基礎Ⅰ及びBasic English PresentationⅡ/プレゼンテーション英語基礎Ⅱについて、Melinda Elekes兼任講師からRobert Dormer兼任講師へ令和5年4月より担当者変更。

・森先生の担当科目からData Analysis and Statistical modeling/データ分析と統計モデリングについて、古川恭治兼任講師を追加し、担当者変更。また、AIビジネス活用論について、岩本隆志兼任講師、吉田誠兼任講師を追加し、担当者変更。

・Data Visualization/データ可視化法について、鎌田真兼任講師から令和４年10月に就任した森俊樹教授に担当者変更。

・Practical Data Science/データサイエンス実践論について、竹本康彦兼任講師から令和４年10月に就任した森俊樹教授に担当者変更。

・大谷幸三兼任講師のWeb Programming and Application Development/ウェブプログラミングとアプリ開発について、川崎恵祐兼任講師、亀谷圭介兼任を追加し、担当者変更。

・Religion and History/宗教と歴史については、指導体制（より専門性に応じた兼任教員の配置の見直しを含め）を考慮して、鄭銀志兼任講師から西井美穂兼任講師に担当者変更した後、令和5年1月より杉井恒彦兼任講師に担当者変更。

・Marketing Theory/マーケティング論については、江戸克栄兼任講師から岡田浩一兼任講師に担当者変更。

・Social Entrepreneurship/社会起業家論については、Ahmed Ashir兼任講師からヤング吉原麻里子兼任講師を追加し、担当者変更。

・Curistopher Morgan Johnson兼任講師のIntroduction to Philosophy and Ethics/哲学・倫理学入門、Logical Thinking/ロジカルシンキングについては、令和４年10月に就任した渡邊和典准教授に担当者変更。

・西井美穂兼任講師のIntroduction to Philosophy and Ethics/哲学・倫理学入門については、令和4年10月に就任した渡邊和典准教授に担当者変更。

・七田良彦兼任講師が担当していたIntroduction to Business Administration/経営学概論については、令和５年10月に就任予定の鄭雅方講師予定者が担当する予定。

・Mathematical Thinking/数学的思考法について、市村匠兼任講師に代わり、青木由香利兼任講師、樊怡舟兼任講師の2名体制とする。

・河本直紀兼任講師が担当しているIntroduction to Mathematics/数学入門について、青木由香利兼任講師を追加。

・Healthcare Services/ヘルスケアサービス論については、瓜生原葉子兼任講師から喜多島知穂兼任講師に担当者変更。

・Introduction to Cognitive Science/認知科学概論及びIntroduction to Psychology/心理学概論については、白水始兼任講師、斎藤萌木兼任講師、藤木大介兼任講師から令和4年10月に就任した中島基宏准教授に担当者変更。

・Project Based Learning ExerciseⅠB/課題解決演習ⅠBについて、元木昭宏兼任講師を追加。

・Project Based Learning ExerciseⅡ/課題解決演習Ⅱについて、中山慎介兼任講師を追加。

・Project Based Learning ExerciseⅠA/課題解決演習ⅠAについて、蒲原龍一兼任講師を追加。

・Problem Solving with IoT/IoT利用による問題解決について、吉田誠兼任講師を追加。

【令和６年度】

・瓜生原葉子教授予定者の就任辞退を受け、後任の専任教員の選考を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和5年5月22日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められたため、令和５年10月に鄭雅方講師を採用した。

・データサイエンス科目の教育の充実のため、データサイエンス担当の専任教員の公募を実施し、候補者を選考。大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和6年2月6日の結果伝達において職位・科目担当の資格が認められたため、令和6年4月に笠島めぐみ講師を採用した。

・Reading EnglishⅠ/リーディング英語Ⅰ、Reading EnglishⅡ/リーディング英語Ⅱについて、Kolak Stephan John兼任講師から、Urszula Maria Styczek Boyede兼任講師に担当者変更。

・Data Visualization/データ可視化法とPractical Data Science/データサイエンス実践論について、令和６年４月に就任した笠島めぐみ講師に担当者変更。

・Introduction to Mathematics/数学入門について、河本直紀兼任講師から、青木由香利兼任講師に担当者変更。

・Introduction to Health Science/健康学入門について、齋藤一彦兼任講師、柴山慧兼任講師、白石智也兼任講師の3名体制から、齋藤一彦兼任講師、柴山慧兼任講師の２名体制に変更。

・Introduction to Business Administration/経営学概論について、令和5年10月から着任した鄭雅方講師に担当者変更。

・Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論について、大藤洋子兼任講師から令和5年10月から着任した鄭雅方講師に担当者変更。

・Marketing Theory/マーケティング論について、岡田浩一兼任講師から、大藤洋子兼任講師に担当者変更。

・Development Economics/開発経済学について、李翠盈兼任講師から、森朋也兼任講師及びPERLAKY Denes兼任講師に担当者変更。

・Project Based LearningⅠB/課題解決演習ⅠBについて、元木昭宏兼任講師、日野原美咲兼任講師から、佐久間航希兼任講師、上別府隆男兼任講師に担当者変更。

・元木昭宏兼任講師について、Project Based LearningⅠA/課題解決演習ⅠA、Project Based LearningⅠB/課題解決演習ⅠB、Project Based LearningⅡ/課題解決演習Ⅱから、Project Based LearningⅡ/課題解決演習Ⅱのみに変更。

・日野原美咲兼任講師について、Project Based LearningⅠA/課題解決演習ⅠA、Project Based LearningⅠB/課題解決演習ⅠBから、Project Based LearningⅠA/課題解決演習ⅠAのみに変更。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合**は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**原則としてAC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ AC教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和５年度開設であれば令和４年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力量科）」の専任教員数について、「(2) -① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) -② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力量科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) -① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
20名	10名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) -② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画について、()内に開設時の教員数を記入してください。

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	助手（A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	助手（B'）
13	7	2	0	22	0	12	12	3	0	27	0
(10)	(7)	(2)	(0)	(19)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	助手（C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	助手（D'）
12	12	3	0	27	0	12	12	3	0	27	0
[△1]	[5]	[1]	[0]	[5]	[0]	[△1]	[5]	[1]	[0]	[5]	[0]

設置時の計画との増減数を[]内に記入してください。
(記入例:△1)

設置時の計画との増減数を[]内に記入してください。
(記入例:△1)

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、()内に開設時の状況を記入してください。

・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。

・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[]内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) -③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
65歳	2名	2名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) -④ 設置時の計画に対する教員充足率

数式が入力されています。

現在（報告時）の完成年度時の状況(C) / 設置時の計画(A) = 27 / 22 = 122.72 %

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

数式が入力されています。

報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数 / 現在（報告時）の状況(B) = 2 / 27 = 7.4 %

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) -⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

数式が入力されています。

現在（報告時）の完成年度時の状況(C') / 設置時の計画(A') = 0 / 0 = - %

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由
(3)－① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	加サ マサ 笠木 雅史	R2. 12	必修	Introduction to Project Based Learning/課題解決入門	①	R2. 12 本人の一身上の都合のためやむを得ず就任辞退。後任の専任教員については、候補者を選考し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受審。令和3年5月28日に審査結果伝達があり、職位・科目担当の資格が認められた。 今後は速やかに採用手続きに入る予定。(3) R3. 10 後任教員については、直ちに選考を実施し、令和3年3月の教員資格審査(AC教員審査)を受審。令和3年5月に教授、当該科目担当可の判定を受けたが、本人のやむを得ない事情(体調不良)により就任辞退。 上記の就任辞退を受け、直ちに公募・選考を実施したが、当該科目担当に相応しい適任者が該当しなかったため、再度公募・選考を実施した。その結果、当該科目担当に相応しい適任者が該当したため、AC教員審査の受審準備中。(4) R4. 8 AC教員審査の結果伝達において、職位・科目担当の資格が認められたため、令和4年10月に渡邊和典准教授を採用。(5)
				必修	Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習 1A	①	
				必修	Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習 1B	①	
				必修	Project Based Learning Exercise Ⅱ/課題解決演習 Ⅱ	①	
				必修	Degree Project/卒業プロジェクト	①	
				選択	Domestic Volunteer Program /国内ボランティア	①	
				選択	Domestic Internship Program A/国内インターンシップA	①	
				選択	Domestic Internship Program B/国内インターンシップB	①	
				選択	Volunteer Abroad Program/海外ボランティア	①	
				選択	Internship Abroad Program/海外インターンシップ	①	
				選択	Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラム	①	
				必修	Introduction to Philosophy and Ethics/哲学・倫理学入門	①	
				選択	Philosophy and Ethics/哲学・倫理学	①	
2	教授	石村 源生	R2. 11	必修	Introduction to Project Based Learning/課題解決入門	①	R2. 11 体調不良のため就任辞退。 後任の専任教員については、直ちに公募を実施し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受審。令和3年5月28日に審査結果伝達があり、職位・科目担当の資格が認められた。 今後は速やかに採用手続きに入る予定。(3) R3. 10 水島希准教授を後任として採用。(4)
				必修	Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習 1A	①	
				必修	Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習 1B	①	
				必修	Project Based Learning Exercise Ⅱ/課題解決演習 Ⅱ	①	
				必修	Degree Project/卒業プロジェクト	①	
				選択	Domestic Volunteer Program /国内ボランティア	①	
				選択	Domestic Internship Program A/国内インターンシップA	①	
				選択	Domestic Internship Program B/国内インターンシップB	①	
				選択	Volunteer Abroad Program/海外ボランティア	①	
				選択	Internship Abroad Program/海外インターンシップ	①	
				選択	Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラム	①	
				必修	Introduction to Ethics of Science and Technology/科学技術倫理入門	①	
				選択	History of Science and Technology/科学技術史	①	
3	教授	高須 司江	R2. 11	必修	Introduction to Project Based Learning/課題解決入門	①	R2. 11 体調不良のため就任辞退。 後任の専任教員については、直ちに公募を実施し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受審。令和3年5月28日に審査結果伝達があり、職位・科目担当の資格が認められた（後任教員2名）。 今後は速やかに採用手続きに入る予定。(3) R3. 7 長岡さくら准教授を後任として採用。(4) R3. 9 安富淳准教授を後任として採用。(4)
				必修	Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習 1A	①	
				必修	Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習 1B	①	
				必修	Project Based Learning Exercise Ⅱ/課題解決演習 Ⅱ	①	
				必修	Degree Project/卒業プロジェクト	①	
				選択	Domestic Volunteer Program /国内ボランティア	①	
				選択	Domestic Internship Program A/国内インターンシップA	①	
				選択	Domestic Internship Program B/国内インターンシップB	①	
				選択	Volunteer Abroad Program/海外ボランティア	①	
				選択	Internship Abroad Program/海外インターンシップ	①	
				選択	Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラム	①	
				選択	Peace Studies/平和論	①	
				必修	Introduction to International Cooperation and Security/国際協力と安全保障入門	①	
4	准教授	ラフイェヤン ヴァヒド RAFIEYAN VAHID	R3. 2	必修	Introduction to Project Based Learning/課題解決入門	①	R3. 2 一身上の都合により広島県への移住ができなくなったため就任辞退。 後任の専任教員については、令和4年4月の採用に向け、令和3年度中に公募実施予定(3) R4. 4 George Michael Higginbotham准教授を後任として採用。(4)
				必修	Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習 1A	①	
				必修	Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習 1B	①	
				必修	Project Based Learning Exercise Ⅱ/課題解決演習 Ⅱ	①	
				必修	Degree Project/卒業プロジェクト	①	
				選択	Domestic Volunteer Program /国内ボランティア	①	
				選択	Domestic Internship Program A/国内インターンシップA	①	
				選択	Domestic Internship Program B/国内インターンシップB	①	
				選択	Volunteer Abroad Program/海外ボランティア	①	
				選択	Internship Abroad Program/海外インターンシップ	①	
				選択	Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラム	①	
				選択	Listening English Ⅰ/リスニング英語Ⅰ	①	
				選択	Writing English Ⅰ/ライティング英語Ⅰ	①	
				選択	Reading English Ⅰ/リーディング英語Ⅰ	①	
				選択	Speaking English Ⅰ/スピーキング英語Ⅰ	①	
				選択	Listening English Ⅱ/リスニング英語Ⅱ	①	
				選択	Writing English Ⅱ/ライティング英語Ⅱ	①	
				選択	Reading English Ⅱ/リーディング英語Ⅱ	①	
				選択	Speaking English Ⅱ/スピーキング英語Ⅱ	①	
				選択	Current English/カレントイングリッシュ	①	
				選択	Presentation English/プレゼンテーションイングリッシュ	①	

5	教授	瓜生原 葉子	R3. 10	必修	Introduction to Project Based Learning/課題解決入門	①	“R3. 10 現任校の教育上等のやむを得ない事情のため就任辞退。 後任の教員については、直ちに公募・選考を実施したが、当該科目担当に相応しい適任者が該当しなかったため、再度公募・選考を実施した。現在、選考中。（４） 「Introduction to Social Psychology/社会心理学概論」については、後任の専任教員を選考しており、現在AC教員審査を受審中である。後任の専任教員が就任するまでの間やむを得ず兼任教員を配置している。（４） Introduction to Business Administration/経営学概論, Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論, Marketing Theory/マーケティング論, Healthcare Services/ヘルスケアサービス論については、専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置している。（４） R4.3「Introduction to Social Psychology/社会心理学概論」の専任教員としてAC教員審査を受審していた中島基宏准教授について、職位・担当科目の資格が認められたため、R4. 10に専任教員として採用。（５） Introduction to Business Administration/経営学概論, Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論については、専任教員の選考を実施し、令和5年3月にAC教員審査を受審。その結果職位・科目共に適格と認められたため、現在令和5年10月の採用に向けて準備中。なお、Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論については、専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任講師を配置している。（５） Healthcare Services/ヘルスケアサービス論については、兼任講師を配置している。（５） Marketing Theory/マーケティング論については、兼任講師を配置している。（５） Introduction to Business Administration/経営学概論, Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論の専任教員としてAC教員審査を受審していた鄭雅方講師について、職位・担当科目の資格が認められたため、R5. 10月に専任教員として採用。（６） Healthcare Services/ヘルスケアサービス論については、兼任講師を配置している。（６） Marketing Theory/マーケティング論については、兼任講師を配置している。（６）			
				必修	Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習1A	①				
				必修	Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習1B	①				
				必修	Project Based Learning Exercise Ⅱ/課題解決演習Ⅱ	①				
				必修	Degree Project/卒業プロジェクト	①				
				選択	Domestic Volunteer Program /国内ボランティア	①				
				選択	Domestic Internship Program A/国内インターンシップA	①				
				選択	Domestic Internship Program B/国内インターンシップB	①				
				選択	Volunteer Abroad Program/海外ボランティア	①				
				選択	Internship Abroad Program/海外インターンシップ	①				
				選択	Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラム	①				
				選択	Introduction to Business Administration/経営学概論	①				
				選択	Management Strategy and Organization Theory/経営戦略・組織論	①				
				選択	Marketing Theory/マーケティング論	②				
				選択	Healthcare Services/ヘルスケアサービス論	②				
選択	Introduction to Social Psychology/社会心理学概論※	①								
6	教授	河瀬 諭	R3. 10	必修	Introduction to Project Based Learning/課題解決入門	①	R3. 10 親の介護により広島県への移住ができなくなったため、就任辞退。 後任の教員については候補者を選考し、令和4年3月の大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審中。（４） 「Introduction to Psychology/心理学概論」, 「Introduction to Cognitive Science/認知科学概論」については、後任の専任教員が就任するまでの間、やむを得ず兼任教員の配置をしている。（４） 「Introduction to Psychology/心理学概論」, 「Introduction to Cognitive Science/認知科学概論」の専任教員としてAC教員審査を受審していた中島基宏准教授について、職位・担当科目の資格が認められたため、R4. 10に専任教員として採用。（５）			
				必修	Project Based Learning Exercise 1A/課題解決演習1A	①				
				必修	Project Based Learning Exercise 1B/課題解決演習1B	①				
				必修	Project Based Learning Exercise Ⅱ/課題解決演習Ⅱ	①				
				必修	Degree Project/卒業プロジェクト	①				
				選択	Domestic Volunteer Program /国内ボランティア	①				
				選択	Domestic Internship Program A/国内インターンシップA	①				
				選択	Domestic Internship Program B/国内インターンシップB	①				
				選択	Volunteer Abroad Program/海外ボランティア	①				
				選択	Internship Abroad Program/海外インターンシップ	①				
				選択	Short-Term Study Abroad Program/海外短期プログラム	①				
				選択	Introduction to Psychology/心理学概論	①				
				選択	Introduction to Cognitive Science/認知科学概論	①				
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
6	人	必修	34	科目	必修	34	科目	必修	0	科目
		選択	58	科目	選択	56	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	92	科目	計	90	科目	計	2	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことで、就任した後に辞任した教員は、以下「(3)－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
		該当なし											
合 計（F）						後任補充状況の集計（G）							
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3)－③ 上記(3)－① ・ (3)－② の合計

合 計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
6	人	必修	34	科目	必修	34	科目	必修	0	科目
		選択	58	科目	選択	56	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	92	科目	計	90	科目	計	2	科目

(3)－④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)－③合計(D)+(F)}{(2)－②設置時の計画(A)} = \frac{6}{22} = 27.27\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3)－⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0人

- (注) ・ (3)－①、(3)－②で**赤字**で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ **令和6年度開設の学科等の場合、（D）＋（F）と同数を記載してください。**

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 - ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 - ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

石村源生教授予定者、高須司江教授予定者、RAFIEYAN VAHID准教授予定者については、それぞれ後任者が決定し、着任済である。(石村源生教授予定者⇒水島希准教授、高須司江教授予定者⇒長岡さくら准教授・安富淳准教授、RAFIEYAN VAHID准教授予定者⇒George Michael Higginbotham准教授) 笠木雅史教授予定者の後任については、後任教員を選考し、令和4年6月のAC教員審査の受審準備中である。既に令和3年に開講している科目については、兼任講師を補充し授業を開講しているため、学生に対して教育上の支障はでない。 瓜生原葉子教授予定者の後任については、現在選考中である。令和4年4月に開講している科目については、兼任講師を補充し授業を開講しているため、学生に対して教育上の支障はでない。 河瀬諭教授予定者の後任については、後任教員を選考し、令和4年3月のAC教員審査を受審中である。令和4年4月に開講している科目については、兼任講師を補充し授業を開講しているため、学生に対して教育上の支障はでない。 今後、専任教員の交代等に当たっては、当該科目の修正したシラバスについて学生ポータルサイト「My Eikei」での周知や、大学ホームページ上の「教員一覧」や当該教員の掲載のあるパンフレットについて速やかにデータの差し替えを実施する等、学生にとって不利益とならないように対応していく。(4)
石村源生教授予定者、高須司江教授予定者、RAFIEYAN VAHID准教授予定者、笠木雅史教授予定者、河瀬諭教授予定者については、それぞれ後任者が決定し、着任済である。(石村源生教授予定者⇒水島希准教授、高須司江教授予定者⇒長岡さくら准教授・安富淳准教授、RAFIEYAN VAHID准教授予定者⇒George Michael Higginbotham准教授、笠木雅史教授予定者⇒渡邊和典准教授、河瀬諭教授予定者⇒中島基宏准教授) 瓜生原葉子教授予定者の後任については、令和5年3月にAC教員審査を受審し、職位・科目共に適格と認められたため、現在令和5年10月の採用に向けて準備中。令和5年4月に開講している科目については、兼任講師を補充し授業を開講しているため、学生に対して教育上の支障はでない。なお、瓜生原葉子教授予定者が担当する予定であった科目のうち「Introduction to Social Psychology/社会心理学概論」については、河瀬諭教授予定者の後任である中島基宏准教授が担当する。 今後、専任教員の交代等に当たっては、当該科目の修正したシラバスについて学生ポータルサイト「My Eikei」での周知や、大学ホームページ上の「教員一覧」や当該教員の掲載のあるパンフレットについて速やかにデータの差し替えを実施する等、学生にとって不利益とならないように対応していく。(5)
石村源生教授予定者、高須司江教授予定者、RAFIEYAN VAHID准教授予定者、笠木雅史教授予定者、河瀬諭教授予定者、瓜生原葉子教授予定者については、それぞれ後任者が決定し、着任済である。(石村源生教授予定者⇒水島希准教授、高須司江教授予定者⇒長岡さくら准教授・安富淳准教授、RAFIEYAN VAHID准教授予定者⇒George Michael Higginbotham准教授、笠木雅史教授予定者⇒渡邊和典准教授、河瀬諭教授予定者⇒中島基宏准教授、瓜生原葉子教授予定者⇒鄭雅方講師) なお、瓜生原葉子教授予定者が担当する予定であった科目のうち「Introduction to Social Psychology/社会心理学概論」については、河瀬諭教授予定者の後任である中島基宏准教授が担当している。また、「Healthcare Services/ヘルスケアサービス論」及び「Marketing Theory/マーケティング論」については、兼任講師を補充し授業を開講しているため、学生に対して教育上の支障はでない。 教員組織に関しては、当初計画数22名のところ、27名を確保し、データサイエンス科目等、教育の充実を図っている。(6)

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の 実施計画
認 可 時		令和3年4月開学し、教育研究活動をスタートしたばかりであるが、現時点での設置計画の主な履行状況については、下記の通り。 （入学者確保の実施状況について） 各選抜区分に共通する事項として、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、受験者の負担を最小限に抑えるため、グループディスカッション、面接についてはオンラインにより実施した。その結果、春入学全体の募集人員80人に対し、166人の志願があり、90人（総合型選抜52名、留学生選抜2名、学校推薦型選抜26名、一般選抜10名）を合格者とした。（志願倍率2.1倍） （教育課程等） 1 年次Spring及びSummerクォーターについて、一部教員の辞退はあるものの、設置認可申請書のとおり、英語集中プログラム（IEP）における全クラスが予定どおり開講している。IEPの実施にあたっては、非常勤講師を含めたIEPを担当する教員全員のチームをMS Teams上で作成し、進捗状況の確認や、授業内容に係る連絡事項等の共有を行い、教育の質の維持・向上に努めている。 （教員組織） 専任教員の就任辞退者4名があったが、後任として5名の専任教員を配置する計画としている。令和2年12月～令和3年1月に実施した公募等を含め、4名の専任教員候補者を選考した。当該4名の専任教員候補者については大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AO教員審査）を受け、職位・科目担当の資格が認められたため、当該科目の授業開始前に採用し、学生の教育・研究の質に支障がないようにする。残りの1名については、現在学内で公募実施に向けて調整中であるが、既に令和3年4月に開講している科目については、当該科目担当の専任教員（教授）が引き続き指導体制に責任を持つとともに、あわせて兼任教員の追加・補充及び兼任教員の専門性に応じた担当科目の見直し等の対応も実施し、現時点においては学生に対して教育上の支障はでていない。しかしながら早急に次年度開講までに後任の専任教員を補充するべく、令和3年度中には後任の専任教員の公募を実施する予定であり、設置計画における教員組織編成計画の確実な履行に努める。 また、設置計画の確実な履行及び教育研究活動の水準を一層向上させることに努めるため、「コンピテンシー・ディベロップメント」「産学官連携・研究推進」「学術情報」「国際交流」の4つのセンターを立ち上げた。各センターの下には設置計画の確実な履行はもとより、特に教育研究活動の水準を向上させるための具体的な方策について議論するための「コンピテンシー教育推進」「入試」「広報」「教育手法検討・研修」「学生支援」「研究推進」「産学官連携」「学術情報」「国際交流」の9つのワーキンググループを設置した。全てのWGにおいて初回の協議にて、各WGにおける所掌範囲等及び今後の教育・研究活動の質の維持・改善に係る方向性等を確認したところである。 （入学者確保の実施状況について） 各選抜区分に共通する事項として、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、受験者の負担を最小限に抑えるため、グループディスカッション、面接についてはオンラインにより実施した。その結果、春入学全体の募集人員80名に対し、166名の志願があり、90名（総合型選抜52名、留学生選抜2名、学校推薦型選抜26名、一般選抜10名）を合格者とした。（志願倍率2.1倍）留学生を主とした秋入学については、選抜区分留学生選抜、総合型選抜でそれぞれ3回募集し、全体の募集人員20名に対し、20名の志願があり、11名を合格者とした。（志願倍率1.1倍）全体の志願倍率は1.9倍となった。（4） （教育課程等） 2021年度のI E P（英語集中プログラム）、Autumn・Winterクォーターの入門系科目及び開学2年目のSpringクォーターにおけるI E Pが予定どおり開講している。2021年度に授業を担当した教員を中心に、F Dにおいて教育改善のためのアンケートの結果等を踏まえた振り返りや意見交換を行ったほか、英語力の伸びが思わしくない学生については、補講として英語力向上講座を実施するなどして、教育内容及び学生指導の質の向上に努めている。（4） （教員組織） 専任教員の就任辞退者の後任については、令和3年度7月～10月に3名、令和4年4月に2名の教員を採用した。また、令和4年10月にも1名採用予定である。現在、1名AO教員審査受審中、6月にAO教員審査を受審予定である。なお、令和4年度中には教員充足率100%を達成する見込みである。設置計画における教員組織編成計画の確実な履行に努める。（4） 設置計画の確実な履行及び教育研究活動の水準を一層向上させることに努めるため、「コンピテンシー・ディベロップメント」「産学官連携・研究推進」「学術情報」「国際交流」の4つのセンターを立ち上げている。各センターの下には設置計画の確実な履行はもとより、特に教育研究活動の水準を向上させるための具体的な方策について議論するための「コンピテンシー教育推進」「入試」「広報」「教育手法検討・研修」「学生支援」「研究推進」「産学官連携」「学術情報」「国際交流」の9つのワーキンググループを設置していたが、令和4年4月に更に「英語力向上」「入学式」「地域連携調整」「卒業プロジェクト・研究室設置検討」の4つのワーキンググループを追加で設置した。全てのWGにおいて初回の協議にて、各WGにおける所掌範囲等及び今後の教育・研究活動の質の維持・改善に係る方向性等を確認したところである。（4） （入学者確保の実施状況について） 各選抜区分に共通する事項として、受験者の負担を最小限に抑えるため、グループディスカッション、面接についてはオンラインにより実施した。その結果、春入学全体の募集人員80名に対し、令和5年度入学者選抜では126名の志願があり、91名（総合型選抜55名、留学生選抜2名、学校推薦型選抜23名、一般選抜11名）を合格者とした。（志願倍率2.1倍） 留学生を主とした秋入学（令和4年度入学者）については、留学生選抜、総合型選抜でそれぞれ3回募集し、全体の募集人員20名に対し、22名の志願があり、14名を合格者とした。（志願倍率1.1倍）（5） （教育課程等） 開学から2年間経過し、教育課程表上のほぼ全ての授業科目を開講した。個別の授業科目についてアンケート結果等を踏まえた授業改善を行っている。課題解決演習や体験・実践プログラムは、実践プラットフォーム協議会加入団体等と連携し実施している。また、成績評価方法について、コンピテンシー評価に係る教員向けアンケートを実施し、今後の評価の適正化・標準化に係る準備を行った。 学生の興味・関心に応じた学修計画の立て方や履修科目の選択、学修方法、学生生活における相談を行うポート（学年横断型担任制）担当教員を定め、学生の学びや生活を支援している。ポート担当教員の研究室の近くには、学生たちが集い、話し合い、休憩することができる学生控室を設置し、学生ロッカー等必要設備の購入・設置を行った。さらに、年度初めに、ポートごとに教員と学生が集まり、学生同士の繋がりを探めることを目的とした「ポートWeek」を定め、コロナ禍で制限されていた学生活動を活性化させている。（5） （教員組織） ・専任教員の就任辞退者の後任については、令和4年度10月に3名、令和5年4月に1名の教員を採用した。また、令和5年10月にも1名採用予定である。今後は、データサイエンス科目の充実のため、データサイエンス担当の教員を追加で公募する予定である。なお、現在の教員充足率は113.6%であり、100%を超過している。引き続き、設置計画における教員組織編成計画の確実な履行に努める。（5） また、設置計画の確実な履行及び教育研究活動の水準を一層向上させることに努めるため、「コンピテンシー・ディベロップメント」「産学官連携・研究推進」「学術情報」「国際交流」の4つのセンターを運営している。各センターの下には設置計画の確実な履行はもとより、特に教育研究活動の水準を向上させるための具体的な方策について議論するための「入試」「学生募集活動」「教育手法検討・研修」「学生支援・卒業式」「研究推進」「産学官連携」「地域連携調整」「学術情報」「国際交流」のワーキンググループを設置した。また、次期中期計画の策定に関することや教育制度の充実について議論するための学長直轄組織として、「中期ビジョン検討委員会」「教務委員会」を設置し、各委員会の下には「大学IR推進検討部会」「コンピテンシー向上部会」「教務推進部会」「体験・実践プログラムタスクフォース」を設置した。全てのWGにおいて初回の協議にて、各WGにおける所掌範囲等及び今後の教育・研究活動の質の維持・改善に係る方向性等を確認したところである。（5） （入学者確保の実施状況について） 各選抜区分に共通する事項として、受験者の負担を最小限に抑えるため、グループディスカッション、面接についてはオンラインにより実施した。その結果、春入学全体の募集人員80名に対し、令和6年度入学者選抜では144名の志願があり、103名（総合型選抜63名、留学生選抜5名、学校推薦型選抜21名、一般選抜11名、追加募集3名）を合格者とした。（志願倍率1.8倍） 留学生を主とした秋入学（令和5年度入学者選抜）については、留学生選抜、総合型選抜でそれぞれ3回募集し、全体の募集人員20名に対し、31名の志願があり、9名を合格者とした。（志願倍率1.6倍）（6） （教育課程等） 開学から4年目に入り、全ての授業科目を開講した。変更や廃止科目は無い。引き続き、個別の授業科目についてアンケート結果を踏まえた授業改善を行っているほか、課題解決演習や体験・実践プログラムは、実践プラットフォーム協議会加入団体等と連携し実施している。 コンピテンシー評価に係る教員向けアンケートの結果を分析し、よりよい評価方法について、学内会議において適正化・標準化に係る準備を行った。 具体的には、現行のコンピテンシー評価で使用している共通参照ルーブリック（4段階）の表現を、学生の学修到達度に応じたポジティブな記載方法に改め、5段階とする改定を検討しており、令和6年度から、一部の科目において、現行のコンピテンシー評価と並行しながら、試行・検証・改善を進める予定である。 学業成績が思わしくない学生の基準を定めて抽出し、「要支援学生」として定め、ポートの教員からの連絡、相談を行い必要に応じて学生相談室と連携するなど、学生の状況に応じた支援機能を強化した。 4年次必修科目「卒業プロジェクト」に実施にあたり、教務推進部会において具体的な運用面の検討・整備を行った。令和5年10月には、学生が自身の関心やテーマについて深く考え、主担当教員（プライマリアドバイザー）を決定するための情報を収集することを目的としたプロジェクト・スタート・ワークショップ（PSW）を開催し、学生のプロジェクト計画に基づいた主担当教員のマッチングを行った。その後、報告会開催スケジュールや、成績評価方法を含めた科目の運営方法についてのマニュアルを定め、教員及び学生に周知した。同マニュアルは、下位学年の学生に対しても学年別ガイダンスで配布し、卒業プロジェクトの履修に向けて、適切な準備を行うよう、履修面も含めた指導を行っている。令和6年度4月から68名が同科目の履修登録を行い、主担当教員を中心に授業を行っている。 体験・実践プログラム（国内・海外）については、卒業予定である1期生を中心に、順調に履修・修得できている。（6） （教員組織） 専任教員の就任辞退者の後任については、令和5年10月に1名を採用した。また、データサイエンス関連科目の充実のため、データサイエンス担当の教員を追加で公募し、令和6年4月に1名を採用した。なお、計画時22名に対し、完成年度は27名の専任教員が就任し、現在の教員充足率は122.7%であり、100%を超過している。（6） また、設置計画の確実な履行及び教育研究活動の水準を一層向上させることに努めるため、「コンピテンシー・ディベロップメント」「産学官連携・研究推進」「学術情報」「国際交流」の4つのセンターを運営している。各センターの下には設置計画の確実な履行はもとより、特に教育研究活動の水準を向上させるための具体的な方策について議論するための「入試」「学生募集活動」「教育手法検討・研修」「学生支援・卒業式」「研究推進」「産学官連携」「地域連携調整」「学術情報」「国際交流」のワーキンググループを設置した。昨年度、次期中期計画期間に向けて、設置目的の実現と更なる発展に向けて議論するための学長直轄組織として設置した「中期ビジョン検討委員会」では、広く教員・職員・学生の参画を得て、発展的思考と長期的視点で大学のビジョンを描き、本学の2025年度以降の取組の方向性と具体的な活動を盛り込んだ「中期ビジョン」の策定を進めた。今年度は、中期計画策定と中期ビジョンの具体的な進捗に向けて「将来構想推進委員会」とし、下部組織として「大学IR推進検討部会」「国際学生寮の在り方検討部会」「ブランドチーム」でもそれぞれ議論を進める。このほか、学長直轄組織として、教育の充実について議論する「教務委員会」を設置し、同委員会の下には「コンピテンシー向上部会」「教務推進部会」「体験・実践プログラムタスクフォース」「IEPチーム」を設置した。全てのWGにおいて初回の協議にて、各WGにおける所掌範囲等及び今後の教育・研究活動の質の維持・改善に係る方向性等を確認、年度の活動目標を設定し、学内で共有したところである。（6）	WGで検討した内容についての具体的な実行主体を全学的に精査した上で実行に移し、適宜振り返りを行いながら、絶えず教育研究活動の水準向上に努める。（3） 引き続き、各WGでの検討を通じて、実施内容の精査、振り返り、改善を進めながら、教育研究活動の向上を行う（4）（5）

設置の趣旨・目的等が生かされるよう、設置計画を確実に履行すること。また、開設時から4年制大学にふさわしい教育研究活動を行うことはもとより、その水準を一層向上させるよう努めること。

【認可】遵守事項

履行中

6 附帯事項等に対する履行状況等

[illegible]

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等		履 行 状 況		今後の 実施計画
認 可 時 (令和２年)	「環境経済学」の中で取り扱われる「環境法学」の内容については、カーボン・プライシング、生物多様性オフセット、環境アセスメント等の様々な法的手法にも言及し、パリ協定の下での脱炭素化にみられるような法的レジームの移行的（transformative）役割については、S D G sの各目標と関連付けて言及されることが望ましい。（助言事項）	【認可】助言事項	助言の内容を踏まえて、カーボン・プライシング、生物多様性オフセット、環境アセスメント等の様々な法的手法にも言及し、パリ協定の下での脱炭素化にみられるような法的レジームの移行的（transformative）役割については、S D G sの各目標と関連付けて言及するようシラバスを修正した。	履行済	
認 可 時 (令和２年)	「生物多様性論」の授業科目の内容は統計の比重が大きくなっているため、必要な知見が幅広く修得できる授業科目の内容に改めること。また、複数の教科書が示されているが、すべて必要なのか再検討し、必要に応じて参考書として示すなど、学生の効果的、効率的な学修に資するよう改めるとともに、教科書を記載する場合は出版年も示すこと。	【認可】助言事項	「生物多様性論」の授業科目において、統計の比重を見直し、「機能的な生物多様性」や「エコシステムのケーススタディ」の内容を組み込む等、必要な知見が幅広く修得できる内容にシラバスの見直し・修正を行った。また、教科書のうちいくつかを参考書として示し、併せて出版年を記載し、シラバスを修正した。	履行済	見直し後のシラバスを当該科目が開講する２年Summerクォーターの履修登録期間までにポータルサイト「MyEikei」で学生に周知する。
認 可 時 (令和２年)	シラバスに記載されている教科書や参考書について、出版年が記載されていないもの、日本語と英語で出版年の表記が異なっているもの等が見受けられるため、記載を確認したうえで学生に示すこと。	【認可】助言事項	全授業科目のシラバスの内容について確認し、公開中のSpringクォーター及びSummerクォーターのシラバスで出版年の記載がなされていないものについては修正し、その内容を公開済である。Autumnクォーター以降のシラバスについては、指摘の内容に沿っての見直しに着手した。（３） 各授業科目のシラバスについて、出版年等の記載を確認した上で、2022年度4月からポータルサイトMyEikeiにおいて学生向けに掲載・公開した。（４）※履行済	履行済	シラバスを各科目が開講するクォーターの履修登録期間までに修正し、ポータルシステム「MyEikei」によりAutumnクォーターに向けて学生に周知する。（３）
認 可 時 (令和２年)	コンピテンシー評価について、学生の学修意欲の低下につながらないよう、趣旨や内容を学生に分かりやすく説明するとともに、公正で客観的な評価に留意すること。	【認可】助言事項	コンピテンシー評価の方法について、学生便覧に掲載し、入学時のオリエンテーションにおいて説明を行った。その他、不明点がある場合は教員のオフィスアワー、教学課及びポート教員において質問を受け付ける体制を整えている。また、「教育手法検討・研修」WGにおいて、コンピテンシー評価を適切に行うための授業改善アンケートのあり方について協議を行い、個々の授業単位ではなく、教育課程上の区分を単位としてアンケートを実施することで、学生の成長度合いをカリキュラムのまとまりの中で評価していくこととした。（３） コンピテンシー評価の方法について、令和４年も引き続き学生向けのオリエンテーションにおいて、職員から評価方法の具体的な内容を、シラバスを見ながら詳しく説明した。また、求められるコンピテンシーが身に付いたかどうかについて、クォーター毎の学生向けのアンケート「教育改善のための授業アンケート」において、関連する質問項目を設け、学生自身が授業終了後の振り返りが行えるようにした。アンケート結果はクォーター毎の授業担当教員において共有し、F Dとして振り返りを行った。（４） オリエンテーションにおいて、評価方法についてシラバス等を提示しながら具体的な説明を行った。また、コンピテンシー評価方法に関する教員自身の理解促進や、評価方法の適正化・標準化に向けて、２０２２年度末に「コンピテンシー教育推進WG」を主体として、教員を対象としたアンケートを実施し、現在の評価に関する課題の把握や、今後の改善点を検討するための準備を開始した。２０２３年度以降は、上記のアンケートデータを基にして、学長直轄組織である「コンピテンシー向上部会」において、評価方法の適正化等に向けた更なる検討を進めている。（５） コンピテンシー評価方法に関する教員自身の理解促進や、評価方法の適正化・標準化に向けて、2022年度末に教員に対してアンケート結果を踏まえ、学長直轄組織である「コンピテンシー向上部会」において、評価方法の適正化及び令和６年度からの新たな評価方法の試行に向けた更なる検討を進めた。具体的には、現行のコンピテンシー評価で使用している共通参照ルーブリック（４段階）の表現を、学生の学修到達度に応じたポジティブな記載に改め、５段階とする改定を検討しており、令和６年度から、一部の科目において、現行のコンピテンシー評価と並行しながら、試行・検証・改善を進める予定である。（６）	履行中	公正で客観的な評価のあり方について、教育制度の充実や教職員研修の企画・実施を担当する「教育手法検討・研修」及び学生のコンピテンシー育成及びキャリア形成支援方策の企画を担当する「コンピテンシー教育推進」の２つのWGを中心となり、セクター長会議での審議を行いながら、それぞれが連携し、検討を進める。（３） また、今後の実施予定として、「コンピテンシー教育推進WG」と「教育手法検討・研修WG」の連携を強化し、コンピテンシーそのものへの理解の推進や、その具体的な評価を行うための方策について、各WG等で合同ミーティングを行いながら、公正かつ客観的な評価の実施を推進する。（４） コンピテンシー向上部会で、成績評価が公正で客観的に行われていることを説明できる資料を作成する。（５） コンピテンシー向上部会で検討した新たな評価方法について令和６年度から一部の科目において、新たな評価方法を試行するための周知・制度説明を行い、試行検証を実施する。（６）
認 可 時 (令和２年)	コンピテンシー評価については教員の負担も大きいと考えられるため、教務担当の職員等が事務的なサポートを行うこと。また、シラバスにおいて示されている「主なコンピテンシー」について、複数設定されている場合であって、重要なコンピテンシーがある場合は、学生の効果的な学修に資する観点から、そのことを明示することが望ましい。	【認可】助言事項	成績評価方法について、成績入力システムにおける視認性を工夫したほか、同システムの教職員用マニュアル（日・英）を整備し、教職員向けのシステム利用説明会を実施した。成績入力期間中には、教務担当職員が必要に応じて教員からの質問を受け付ける体制を整えている。 なお、複数のコンピテンシーが設定されている科目については、各コンピテンシー同士が相互補完的に絡み合って育成されるものと考えているため、その重要性に差異は設けていない。その上で、複数の科目が相互補完的にコンピテンシーを身に付けられるよう、科目の体系性や連続性に留意した教育課程としている。（３） コンピテンシー評価を含めた成績評価の方法について、ポータルシステムに入力する期間において、教務担当職員から専任教員及び非常勤教員に対して対面又はZoomによる個別に説明を行った。また、前述のF Dにおいて、授業を実施した教員を中心としたコンピテンシー評価のあり方に関する意見交換を行い、今後も引き続き適切な成績評価の方法について議論を継続していくこととした。（４） 新規採用教員（非常勤講師も含む）に対して、職員がコンピテンシー評価について個別に説明し、サポートする。（５） 引き続き、新規採用教員（非常勤講師も含む）に対して、職員がコンピテンシー評価について個別に説明し、サポートする。（６）	履行中	summerクォーター以降も、引き続き担当職員が事務的なサポートを行うほか、実際の運用状況を踏まえてマニュアルの更新を行う。 また、コンピテンシー評価における教員間の差が生じないように、F Dの中で、教員同士で成績評価の相互レビューを実施する。（３） 引き続き、教員間でのコンピテンシー評価に関する意見交換を行い、適切な成績評価の方法について議論を継続する。（４） 複数のコンピテンシーを設定している科目を抽出し、重要度を示したうえで学生に明示できるよう検討する。（５） 引き続き、複数のコンピテンシーを設定している科目を抽出し、重要度を示したうえで学生に明示できるよう検討する。（６）
認 可 時 (令和２年)	「課題解決演習科目」や「体験実践プログラム」の運営の教員体制について、突発的な事象に対応しなければならないことも想定されるため、教員の過度な負担にならないよう留意しつつ、バックアップ体制の整備を検討することが望ましい。（助言事項）	【認可】助言事項	「課題解決演習科目」及び「体験実践プログラム」の運営については、令和４年度以降の授業実施に向けて、教員の業務負担を考慮し、授業の実施体制や科目担当教員の配置について、「産学官連携WG」において検討を行っている。また、企業等との緊密なコミュニケーションや新たな連携先の獲得に向けたPR活動等を担う職員３名を配置する等、バックアップ体制の整備を実施した。（３） 「課題解決演習科目」及び「体験実践プログラム」の授業実施体制や科目教員の配置方針を決定し、それに基づき授業を運営している。特に課題解決演習科目にて、令和４年４月より専任講師の川瀬真紀教授（令和３年12月教員審査済み）を追加採用し、教員全体の統括や企業との調整業務に従事していただいている。（４） 「課題解決演習」科目や「体験・実践プログラム」の授業科目群について、統括を担当する専任教員を配置し、担当職員と連携の上、授業を運営している。２０２２年度の対応内容をマニュアル化し、連携先企業や学生に対して送信するメール等をテンプレート化した上で、共有フォルダにおいて教職員双方が確認できるようにし、双方の負担の軽減に努めている。（５） 「課題解決演習」科目や「体験・実践プログラム」の授業科目群について、統括を担当する専任教員を配置し、担当職員と連携の上、定期的な会議等を実施しながら、授業を運営している。引き続き過去の対応内容をマニュアル化し、Microsoft Teamsの中でフォルダを共有化するなどすることで、教職員の負担軽減に努めている。プラットフォーム協議会会員の増加に伴い、課題解決演習や体験実践プログラムの連携を継続して希望する会員も増えてきており、持続的に科目運営ができる体制が整ってきている。（６）	履行中	突発的な事象への対応、また授業準備や企業等との調整において教員の負担が軽減できるよう、バックアップ体制の整備について検討を継続するとともに、各科目における教材の標準化や、協力企業等との連絡調整にかかる手続きのマニュアル化を進める。（３） 教員のバックアップ体制の整備について引き続き検討をするとともに、各科目における教材の標準化や、協力企業等との連絡調整にかかる手続きのマニュアル化を進める。（４） 「教務推進部会」において、科目ごとに運営マニュアルや危機管理マニュアルを作成し、突発的な事象に対して、組織で対応できるよう検討する。（５） 「教務推進部会」において作成した運営マニュアルや危機管理マニュアルを適宜見直し、突発的な事象に対して、組織で対応できるよう、引き続き検討する。（６）
認 可 時 (令和２年)	「教員と職員が協力して業務を推進」するとされている必修科目の「卒業プロジェクト」について、教職員の負担が大きくなりすぎないよう適切な連携を図りながら実施されることが望ましい。（助言事項）	【認可】助言事項	４年次が開講する「卒業プロジェクト」について、教員は学生指導を行うほか、運営業務のうち指導希望学生との面談や受け入れ判断を、職員は共通的な運営業務として、公開プレゼンテーションの会場調整やプラットフォームへの参加団体との調整を行うこととしている。今後のプログラム実施のための具体的な検討を進める際に、プラットフォームの運営や、就職支援を含むキャリア教育に関する業務を担当する教育企画課と、教員の授業運営サポートや学生への履修指導を行う教学課が連携し、上記の業務に関する教職員の連携に留意しながら準備を進めることを確認した。（３） 教育企画課及び担当教員が主導する卒業プロジェクト・研究室WGにおいて、卒業プロジェクトの制度構築や開講までのスケジュール設計に関する協議を開始した。（４） 「卒業プロジェクト・研究室WG」で作成した「卒業プロジェクト科目の在り方について（最終まとめ）」にしたがって、教員と職員が連携して、実施計画を作成している。（５） 「卒業プロジェクト・研究室WG」で作成した「卒業プロジェクト科目の在り方について（最終まとめ）」にしたがって、具体的な運用について検討、推進するための学長直轄組織「教務推進部会」を整備し、令和６年度からの科目開講に向けて具体的な運用面の検討・整備を行った。令和５年１０月には、学生が自身の関心やテーマについて深く考え、主担当教員（プライマリアドバイザー）を決定するための情報を収集することを目的としたプロジェクト・スタート・ワークショップ（PSW）を開催し、学生のプロジェクト計画に基づいた主担当教員のマッチングを行った。その後、報告会開催スケジュールや、成績評価方法を含めた科目の運営方法についてのマニュアルを定め、教員及び学生に周知した。同マニュアルは、下位学年の学生に対しても学年別ガイダンスで配布を行い、卒業プロジェクトの履修に向けて、適切な準備を行うよう、履修面も含めた指導を行っている。令和６年度４月から68名が履修登録を行い、同科目を開講している。（６）	履行中	引き続き部署間での連携を適切に実施しながら、同必修科目の具体化に係る検討・準備を実施する。（３） 今後、プロジェクトの内容が整備される中で、教学課と連携し、授業運営方法や単位認定に関する制度の準備を行う予定である。（４） 「教務推進部会」において、卒業プロジェクトの進め方や報告会の実施内容を決定する。（５） 「教務推進部会」において定めた具体的な運用ルール、マニュアルに基づき、実施する。報告会等開催後等、振り返りを行い、課題等を整理のうえ、次年度につなげる。（６）
認 可 時 (令和２年)	必修科目である「卒業プロジェクト」について、就職活動の時期と重なるため、適切に履修が行われるよう学修支援を行うとともに、秋入学の学生は４月入学より履修時期が早まるため、「卒業プロジェクト」の履修に必要な授業科目の履修が行えることや、４年次においても必要な授業科目の履修を行うよう履修指導を適切に行うこと。	【認可】助言事項	今後のプログラム実施のための具体的な検討を進める際に、プラットフォームの運営や、就職支援を含むキャリア教育に関する業務を担当する教育企画課と、教員の授業運営サポートや学生への履修指導を行う教学課が連携し、上記の業務に関する教職員の連携に留意しながら準備を進めることを確認した。 秋入学の学生については、春入学の学生と異なり、入学時点で全面英語による授業履修が可能な語学レベルが担保されているため、半年間をIEP（英語集中プログラム）に費やす必要はなく、「卒業プロジェクト」の履修に必要な授業科目の履修は問題なく行えると考えている。（３） 卒業プロジェクトの制度化を進めると同時に、キャリア教育を担当する教育企画課と学生の履修を担当する教学課において、卒業プロジェクトの受講に必要な授業科目の単位取得や卒業要件に必要な科目の履修に関する個々への指導を十分にに行い、卒業に支障がない運営方法について今後協議を行うことを確認した。（４） ３年次秋クォーターに教員の研究分野を紹介し、意見交換するプロジェクト・スタート・ワークショップ（PSW）を行い、学生自らが関心のあるテーマを発見し、４年次開講の「卒業プロジェクト」に取り組めるよう準備する。 また、就職活動と並行して卒業プロジェクトに取り組むことができるよう単位取得状況を把握するとともに、ポート担当教員と教学課が連携して、学修支援を行う。（５） 学生が「卒業プロジェクト」で取り組むテーマを明確化し、アドバイザーのマッチングを適切に行うためのプロジェクト・スタート・ワークショップ（PSW）を実施し、令和６年度からのプロジェクト実施に係る準備を行った。主担当教員を決定「卒業プロジェクト」の実施に関するマニュアルを定め、学生に対して適切な履修に関する内容を含めた説明を行った。秋入学については、各種説明会等において同時通訳を付けるなどして、春入学生と同じ情報量で情報の伝達を行うよう工夫した。英語集中プログラム（IEP）以外の科目の履修順序等は春入学生と同一であり、「卒業プロジェクト」の履修に必要な授業科目の履修が行えることを時間割表等の各種資料で説明している。科目の履修登録について、システム上の登録では月曜５・６限として設定しているが、主担当教員と履修学生の都合のよい時間帯で柔軟に授業を行うことを可能としており、学生の就職活動に影響がないよう配慮を行っている。（６）	履行中	引き続き部署間での連携を適切に実施しながら、同必修科目の具体化に係る検討・準備を実施する。（３） 引き続き、卒業プロジェクトの制度化を進め、教育企画課と教学課にて卒業プロジェクトの運営方法について協議を行う。（４） 「卒業プロジェクト科目のあり方について（最終まとめ）」に基づき、実施方法を決定する。（５） 「卒業プロジェクト科目のあり方について（最終まとめ）」に基づき実施する。（６）

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分		附 帯 事 項 等	履 行 状 況		今後の 実施計画
認 可 時 (令和2年)	評価の客観性の担保のために、入学者選抜において録音又は録画等を行うに際しては、このことを入学者選抜実施要項等で受験生にあらかじめ周知されることが望ましい。(助言事項)	【認可】助 言事項	令和3年度入試における面接及びグループディスカッションについてはオンラインで行うこととし、学生募集要項に「オンラインによる試験実施」という項目を設け、注意事項として、公正な試験を実施するため、試験の様子は本学が録画を行う旨を明記し、webサイトにおいて公表した。	履行済	令和4年度以降の入試においても、面接及びグループディスカッションをオンラインで行う場合には、同様に対応する。
認 可 時 (令和2年)	例えば、専門的な設計が必要と考えられる多数の無線アクセスポイントの整備や段階的に整備する充電設備をはじめとした施設設備については、学生の教育研究に支障のないよう適切に整備すること。	【認可】助 言事項	通信環境については、開学時までの改修工事において、大学全館で学生が使用できるWi-Fiを整備している。電源設備については、モバイルバッテリー及び電源タップを必要に応じて貸与する体制を整えたほか、リレーコンセントのレールを教室に整備しており、必要に応じてコンセントを設置し、学生が授業中に電源を得ることができるよう設備を整えている。	履行済	
認 可 時 (令和2年)	学生が持参した端末を使って授業を受講する「BYOD形式」とするのであれば、技術的サポート体制の重要性に鑑み、外部委託による「ヘルプデスク」だけでなく、将来的には専任の技術職員の配置を検討するなど、継続的かつ適切なサポート体制を構築することが望ましい。また、学内の所管となる「学術情報センター」の教職員について、最新の知識・技術の修得ができるようにすることが望ましい。(助言事項)	【認可】助 言事項	担当教職員が最新の知識・技術を習得できるよう、関係オンライン研修への参加を積極的に推奨していると共に、学術情報業務を担当する専任教員が、担当職員のレベルアップを図るため、日常的に知識・技術の伝達を行っている。(3) AXIES(大学ICT推進協議会)に加盟し、他大学の先進的事例を参考にするとともに、常に最新の情報を参照し、必要に応じて取り入れを行った。(4) 引き続き、大学ICT推進協議会に加盟し、外部委託の「サポートデスク」が対応した事例を毎月共有するとともに、専任教員と担当職員が日常的に知識・技術の修得を行っている。(5) 引き続き、大学ICT推進協議会に加盟し、外部委託の「サポートデスク」が対応した事例を毎月共有するとともに、専任教員と担当職員が日常的に知識・技術の修得を行っている。2022年度から、指定推奨パソコンの購入制度を廃止し、一定のスペックを満たしたパソコンを各自で購入させる形としているが、学生から頻繁に寄せられるトラブル等の事例を定期ミーティングで報告することで、学術情報センター教職員間の情報共有を行っている結果、大きなトラブル等は起きていない。(6)	履行中	研修参加の推奨や知識・技術の伝達を行うことで引き続き教職員のレベルアップを図っていくと共に、学生からの問い合わせやトラブルサポート依頼件数及びその内容を踏まえて、専任の技術職員の配置等について検討する等、継続的かつ適切なサポート体制の構築に努める。(3) 引き続きICTを専門とする専任教員が学術情報センター担当職員のレベルアップを図るため、日常的に知識・技術の伝達を継続する(4)(5)(6)
認 可 時 (令和2年)	運動場、体育館が別地にあることから、教育に支障のないようにすることはもとより、学生の課外活動等に配慮すること。	【認可】助 言事項	課外活動について、観啓大学の学生が県立広島大学の課外活動団体への加入を許可しているほか、観啓大学の学生のみで構成する課外活動団体についても、県立広島大学の運動場や体育館を使用可能としている。施設利用の予約については、各大学の教学課が連携し、予約が重複しないよう十分な調整を行う。学生に対して、県立広島大学への移動方法を学生便覧において分かりやすく明示し、スムーズな移動を支援している。(3) 体育館等の利用について、県立広島大学本部教学課と連携し、予約確認を行っている。(4) 2022年度12月に集中講義として実施した「健康学入門」「Introduction to Health Science」について、県立広島大学の体育館を利用して実技を実施した。今後も、同授業の実施時には、集中講義として学生の移動時間に配慮すると共に、課外活動において使用を希望する学生がいる場合は県立広島大学本部教学課と連携し、予約確認を行う。(5)	履行済	学生の課外活動における施設利用状況を踏まえて、引き続き配慮を行っていく。また、2年次に開講する「健康学入門」における体育施設の利用については、県立広島大学への移動時間を加味して集中講義として実施する等、教育に支障のないよう配慮した時間割編成とする予定である。(3) 令和4年度から開講する「健康学入門」「Introduction to Health Science」について、12月に県立広島大学の体育館を利用して実技を実施する予定である。(同科目は、学生の移動に係る時間を考慮し、通常授業コマの中ではなく、GAP期間中の集中講義として実施する)(4)
設置計画履行状況 調査結果 (令和3年)	・専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行するよう努めること。	指摘事項 (改善)	【当初設置計画(完成時 教員組織編制)】 ・当初設置計画(完成時) 教授13名 准教授7名 講師2名 計22名 【経緯】 ・令和3年4月の開学時点で、本人のやむを得ない事情から専任教員4名(教授3名、准教授1名)の就任辞退が出ている。 令和3年5月時点では専任教員充足率は81.81%(教授10名、准教授6名、講師2名 計18名)。 ・令和3年10月時点で、本人のやむを得ない事情から令和4年4月就任予定としていた専任教員2名(教授2名)の就任辞退が出ている。 ・令和3年12月時点では、専任教員充足率は86.4%(教授9名、准教授8名、講師2名、計19名)。 ・令和4年4月時点では、専任教員充足率は95.5%(教授10名、准教授9名、講師2名 計21名)。 ・心理学専任教員はAC教員審査受審中、哲学・倫理学専任教員は令和4年6月にAC教員審査受審予定、令和4年10月にデータサイエンス専任教員である森俊樹教授就任(令和3年12月教員審査済み)であり、令和4年度中には専任教員充足率は100%を達成する。 【後任補充状況】 就任辞退教員(6名)の後任補充については、以下のとおりである。 ・笠木雅史教授予定者：後任を選考し、令和4年6月のAC教員審査の受審準備中。 ・石村源生教授予定者：後任を選考し、令和3年10月に水島希准教授を採用済。 ・高須司江教授予定者：後任2名を選考し、令和3年7月に長岡さくら准教授、令和3年9月に安富淳准教授を採用済。 ・瓜生原葉子教授予定者：後任について公募し、現在選考中。 ・河瀬諭教授予定者：後任を選考し、令和4年3月のAC教員審査を受審中。 ・RAFIEYAN VAHID准教授予定者：後任を選考し、令和4年4月にGeorge Michael Higginbotham准教授を採用済。また、教育の充実のため以下の2名の教員を新規採用する。 ・森俊樹教授：データサイエンス関連科目の充実のため、令和4年10月に着任予定。令和3年12月のAC教員審査を受審し、職位及び科目の適格性が認められた。令和4年4月～9月にかけては兼任講師としてデータサイエンス概論Aを山田芳則教授とオムニバスで担当。 ・川瀬真紀教授：共通科目(課題解決演習関連)について、教員への指導や企業との調整を担当していただくため、令和4年4月に着任。 令和3年12月のAC教員審査を受審し、職位及び科目の適格性が認められた。 【教育研究上の支障の有無及び具体的な対応状況】 ・就任を辞退した専任教員の担当科目については、専任教員の後任を採用する計画であるが、採用が決定するまでは予定通りに開講するため、担当可否について学内で判断し、非常勤講師により対応した。あわせて、科目によっては他の専任教員の指導体制及び教授が責任を持つとともに、兼任教員の追加・補充及び兼任教員の専門性に応じた担当科目の見直し等の対応の実施を行った。令和3年度は1年次科目のみの開講であることから、就任辞退教員の単独での担当科目の開講が少なかったこと等もあり、現段階では教育研究上の支障は出ていない。また、科目担当教員のやむを得ない変更について、掲示板掲載の方法で周知を行い学生に不利益が生じないように努めた。令和4年度についても、後任の専任教員配置まで学生に不利益が生じないように最善の対応を実施する。 【状況】 ・令和5年4月時点では、専任教員充足率は113.6%(教授12名、准教授12名、講師1名 計25名)。 【後任補充状況】 就任辞退教員(6名)の後任補充については、以下のとおりである。 ・笠木雅史教授予定者：後任を選考し、令和4年10月に渡邊和典准教授を採用済。 ・石村源生教授予定者：後任を選考し、令和3年10月に水島希准教授を採用済。 ・高須司江教授予定者：後任2名を選考し、令和3年7月に長岡さくら准教授、令和3年9月に安富淳准教授を採用済。 ・瓜生原葉子教授予定者：後任を選考し、令和5年3月のAC教員審査を受審中。 ・河瀬諭教授予定者：後任を選考し、令和4年10月に中島基宏准教授を採用済。 ・RAFIEYAN VAHID准教授予定者：後任を選考し、令和4年4月にGeorge Michael Higginbotham准教授を採用済。 また、教育の充実のため以下の3名の教員を新規採用する。 ・森俊樹教授：データサイエンス関連科目の充実のため、令和4年10月に着任。 ・川瀬真紀教授：共通科目(課題解決演習関連)について、教員への指導や企業との調整を担当していただくため、令和4年4月に着任。 ・松浦康之講師：共通科目(課題解決演習関連)について、教員への指導や企業との調整を担当していただくため、令和5年4月に着任。 【教育研究上の支障の有無及び具体的な対応状況】 ・就任を辞退した専任教員の担当科目のうち、補充ができていなかった経営学関連科目について、教員公募を実施し、大学設置・学校法人審議会の教員審査を令和5年3月に受審し、令和5年5月の審査結果で職位・科目が適格となったため、令和5年10月採用に向けて準備を行う。就任までは非常勤講師が科目を担当する。 また、科目によっては他の専任教員の指導体制及び教授が責任を持つとともに、兼任教員の追加・補充及び兼任教員の専門性に応じた担当科目の見直し等の対応の実施を行った。また、科目担当教員のやむを得ない変更について、掲示板掲載の方法で周知を行い学生に不利益が生じないように努めた。令和5年度についても、後任の専任教員配置まで学生に不利益が生じないように最善の対応を実施する。(5) 【状況】 ・令和6年4月時点では、専任教員充足率は122.7%(教授12名、准教授12名、講師3名 計27名)。 【後任補充状況】 就任辞退教員(6名)の後任補充については、以下のとおりである。 ・笠木雅史教授予定者：後任を選考し、令和4年10月に渡邊和典准教授を採用済。 ・石村源生教授予定者：後任を選考し、令和3年10月に水島希准教授を採用済。 ・高須司江教授予定者：後任2名を選考し、令和3年7月に長岡さくら准教授、令和3年9月に安富淳准教授を採用済。 ・瓜生原葉子教授予定者：後任を選考し、令和5年10月に鄭雅方講師を採用済。 ・河瀬諭教授予定者：後任を選考し、令和4年10月に中島基宏准教授を採用済。 ・RAFIEYAN VAHID准教授予定者：後任を選考し、令和4年4月にGeorge Michael Higginbotham准教授を採用済。 また、教育の充実のため以下の4名の教員を新規採用する。 ・森俊樹教授：データサイエンス関連科目の充実のため、令和4年10月に着任。 ・笠島めぐみ講師：データサイエンス関連科目の充実のため、令和6年4月に着任。 ・川瀬真紀教授：共通科目(課題解決演習関連)について、教員への指導や企業との調整を担当していただくため、令和4年4月に着任。 ・松浦康之講師：共通科目(課題解決演習関連)について、教員への指導や企業との調整を担当していただくため、令和5年4月に着任。 【教育研究上の支障の有無及び具体的な対応状況】 ・就任を辞退した専任教員の担当科目のうち、補充ができていなかった経営学関連科目について、教員公募を実施し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受審し、令和5年5月22日の結果伝達において職位・科目が適格となったため、令和5年10月に鄭雅方講師を採用した。 また、科目によっては他の専任教員の指導体制及び教授が責任を持つとともに、兼任教員の追加・補充及び兼任教員の専門性に応じた担当科目の見直し等の対応を行った。なお、科目担当教員のやむを得ない変更について、掲示板掲載の方法で周知を行い学生に不利益が生じないように努めた。(6)	履行中	【今後の計画】 ・経営学専任教員については現在選考中である。教育の質の向上のため、全教員の共通科目である課題解決演習科目について、教員の統括を行う指導教員の採用を計画している。 経営学教員の令和5年10月採用に向け、速やかに採用手続きに入る。 また、更なる教育の充実のため、データサイエンス教員の公募を令和5年6月に実施予定である。(5)

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の 実施計画
-----	-----------	---------	-------------

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は
寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。） と、それに対する履行状況等について、
具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、
以下のとおりに記載してください。
- 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び
「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。
- 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（5）（6）」と記載してください。
- 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（6）」と記載してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を
全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。
その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

＜ソーシャルシステムデザイン学部 ソーシャルシステムデザイン学科＞

（１）設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
・新型コロナウイルスの影響による特例的対応	・ C E F RレベルB 2未達成の学生にのみ I E Pを履修させることとしていたが、学生の英語力の更なる向上や、学生間が相互交流を行うための環境の構築を目的とし、春入学の学生は留学生も含めて、全員一律で I E Pを履修させることとして変更した。（３） ・ I E P終了後、英語力が伸び悩んだ学生を対象として、 T O E F L I T Pテスト対策を含め、英語で授業を受けるために必要な、文法の復習を含めた基礎力向上に係る補習講座を行った（４） ・新型コロナウイルス感染症拡大の状況を考慮し、5月6日からの大型連休明けから、全面オンライン授業へ切り替え、ポータルシステム「MyEikei」において、学生向け掲示板への掲示及びメール配信により周知を行った。（３） ・令和３年度において、新型コロナウイルスの影響により、一定の期間において全面又は一部オンラインに切り替えて授業を行った。オンライン授業の実施による学年暦の変更はない。また、感染症拡大に伴う入国制限により日本へ入国できなかった一部の留学生について、学内で授業を履修している学生の様子を A I 追尾カメラで配信しながらZoomによるやり取りを行い、ハイブリッド方式での授業を行った。接続については、職員によりTeams Chatによる接続不良時の連絡対応等を行い、スムーズに授業が受講できるようサポートを行った。（４） ・日本国政府の入国制限により対面授業に参加できない留学生に対しては、対面とオンラインのハイブリッド授業を提供し、履修に対して支障がないよう対応した。今年度は、昨年度入国できていなかった留学生の入国が完了したため、ハイブリッド授業は実施していない。（４） ・オンライン授業実施に伴う学年暦の変更はない。（３） ・オンライン授業への切り替えに当たっては、専任教員及び教学課から非常勤講師への事前連絡を密に行い、中間試験及び最終試験の実施方法についてTeamsを用いたオンライ会議において情報共有を行う等して、学生の学修に影響が出ないよう配慮を行った。（３） ・新型コロナウイルスの感染状況並びに県の活動基準に従って、対面・オンライン授業へと切り替えを行った。コロナウィルスの陽性判定により対面授業への出席ができなくなった学生に対しては、授業の配付資料の共有やオンラインでの期末試験への出席を認めるなどの配慮を行った。今年度は、原則、全面対面授業を実施し、感染状況に応じて、都度、オンラインへの切替を行うこととしている。（４） ・学生間の感染症拡大防止のため、学生の大学への入構を原則として禁止したが、奨学金申し込みに関する書類の提出等、やむを得ない事情による入構希望者については、入口付近に配置している警備室のスタッフとの連携の上、入構目的を入口で記載させ、大学への滞在時間を最低限に留めさせる等、個別に対応を行った。（３） ・大学への入構に関しては、引き続き、対面授業への参加や奨学金などの各種必要手続きが必要な場合のみ許可し、学内での感染防止に努めた。（４） ・新型コロナウイルスの収束に伴い、全面対面での授業を再開した。過去２年間で修得したオンラインでの授業実施スキルを活かし、教育の質維持に留意しながら、必要に応じてハイブリッド授業を柔軟に実施している。（５）（６）
・図書・学術雑誌 （42,600〔3,250〕）	・図書の利用については、メール又は電話申し込みによる宅配貸し出しサービスを開始したほか、学生の心の健康管理について、学生相談室におけるカウンセリングを電話相談での実施に切り替える等して、入学直後である学生の孤独感解消に努めた。（３） ・図書の利用は、宅配貸出サービスを継続し、学生相談室におけるカウンセリングも電話又はオンラインでの相談に切り替えを行うことで学内での感染拡大を防止しつつ、必要な支援は提供できるよう対応した。（４） ・なお、上記に関する学生及び教職員への周知については、全て日本語及び英語の両方において行った。（３）
・図書・設備の機械・器具 （1,662）	・入学選抜試験の各区分に共通する事項として、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、受験者の負担を最小限に抑えるため、グループディスカッション、面接についてはオンラインにより実施した。その結果、春入学全体の募集人員80人に対し、166人の志願があり、90人（総合型選抜52名、留学生選抜２名、学校推薦型選抜26名、一般選抜10名）を合格者とした。（志願倍率2.1倍）（３） ・図書・学術雑誌について、申請時に予定していた冊数の一部の納品が間に合っていないため、学年完成時までに予定冊数まで購入できるよう鋭意準備を進めている。開講科目に係る書籍は一通り揃っており、現時点では学生の教育に支障はない。（38、548〔1、229〕）（３） ・令和３年度末にて、ほぼ予定冊数の購入を完了している。引き続き、カリキュラム履行に係る必要図書の調達を行う。学術雑誌については、留学等海外からのアクセス利便性を考慮し、電子・データベースでの契約を進めている。（41、981〔3、060〕）（４） ・学術雑誌の外国書及び視聴覚資料の点数は計画に対して減っているが、電子ジャーナル等のデータベース「Gale Academic OneFile」契約により、エンバーゴ（オリジナルとタイムラグ）なしでフルテキストで5、246タイトルが閲覧可能（うち視聴覚使用647）であるため、実質的に学生が活用できる資料は大幅に増えている。（４） ・機械・器具の点数の増は申請時、新規で購入する備品で具体的な仕様が決定したもののみの点数を算出しており、1Fや15Fなどの備品のAV機器や全フロアの備品機械・器具、学内で利用している残置品も併せて、確定していないものの計上は控えていたが、確定後に数え直しを実施した。講義室・PBL演習室のAV機器は200点近くあり、設置時の計画に算出できていなかった新遠隔講義システムなどの機械・器具の点数も新たに追加したため。（3、706）※校舎備品点数1、622増、講義室・PBL演習室 AV機器178増、英語ラウンジAV機器20増、新遠隔講義システム105増、テレビ会議連携システム14増、モバイルバッテリー（学生配布用）105増（３）
	（その他） ・デジタルリテラシー教育の強化を目的とし、デジタルリテラシー事業推進本部を設置。（４） ・産学官連携・研究推進センターにセンター専任教員である河村勉教授を配置。河村教授はデジタルリテラシー事業推進本部の教授を兼務している。 主として、広島県内のデジタルリテラシー教育の推進のための業務を担当している。（５）（６）

（注）・ １～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

・教員の資質維持向上を行うためのFDの具体的実施方法等について検討する「教育手法検討・研修」WGを設置した。
・SDに関しては、法人本部で企画している研修に、今年度から本学の教職員も参加することになっており、教職員の資質向上に努める。（３）
・令和3年に設置された「教育手法検討・研修」WGにおいて、「教育改善アンケートの運用方法」、「2021年度におけるFD実施内容」、「日英ライティングにおけるピア・サポート体制の構築方法」等について、MS Teamsにおいて随時協議を行った。（４）
・SDに関しては、今年度も引き続き、法人本部で企画している研修に、本学の教職員も参加することになっており、教職員の資質・能力の向上に努める。（４）
・「教育手法検討・研修WG」において、教員の資質維持向上を目指したFDを計画している。2022年度は、教員からのニーズ等を踏まえ、「授業の理解度を確認するためのレポート課題の設定の仕方とその多様性について」「大学における教育・研究に係る著作権問題について」「アクティブラーニングの手法」「研究倫理と科学者の信頼」の4つのテーマにおいてFDを実施した。（５）
・「**教育手法検討・研修WG**」において、**教員からのニーズ等を踏まえ、「BEVIガイダンス（Prof. Craig Shealy's BEVI guidance）」「LGBTQ+におけるアライシップについて、卒業プロジェクトについて」「研究倫理集合教育（研究推進WGとの合同開催）」「学業責任と成績評価方針に関する深い考察」の4つのテーマにおいてFDを実施した。（６）**

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

・Microsoft TeamsにおけるWG関係者間の協議（随時）及び対面でのミーティングを1回実施した。
SDに関しては、法人本部において開催する。（昨年度は3回開催）（３）
・Microsoft TeamsにおけるWG関係者間の協議を随時実施し、FDの内容や日程調整に係る議論を行った。また、教員が参加している「Faculty Development」チャンネルにおいて、全教員からのFDニーズ（取り上げてほしいテーマや困っていること等）の募集や、他大学の先事例の紹介、FD事前課題や質問・回答の共有等を行った。（４）
・SDに関しては、必要に応じて法人本部の各部署で開催した。（４）
・「教育手法検討・研修WG」は、ハイブリッドで2回開催した（教員5名、職員3名）。
また、Microsoft Teamsのグループチャット及びオンライン打ち合わせを随時行い、FD研修会のテーマ等の打ち合わせを行った。（５）
・「**教育手法検討・研修WG**」は、**全体の方針決定に関する対面でのMTGを開催した他、Microsoft Teamsにおいて随時開催した。（６）**

c 委員会の審議事項等

・授業改善アンケートの運用方法、2021年度におけるFD実施方法、日英ライティングにおけるピア・サポート体制の構築について教育手法検討・研修WGにおいて協議を行った。（３）
SDに関しては、法人本部の研修部門において、教職員研修に係る企画・実施に関することを協議する。（３）
「研修部門」会議では、アクティブ・ラーナー育成に係る教職員研修の企画・実施に関すること等の教育改善を、高等教育推進機構における方針決定を踏まえて具現化する。（３）
・教育改善アンケートの運用方法、2021年度におけるFD実施について、日英ライティングにおけるピア・サポート体制の構築 等（４）
・SDに関しては、法人本部の各部署において、教職員研修に係る企画・実施に関することを協議した。（４）
・授業評価アンケート（中間アンケート）の実施、FD研修の実施内容、コンピテンシー評価に係るアンケート項目について協議した。（５）
・**年度のWG活動目標を設定し、FD開催スケジュール及び企画について協議した。（６）**

② 実施状況

a 実施内容

・授業改善アンケートの項目内容、閲覧範囲、フィードバック方法の決定
・FD活動の大まかなテーマの決定、月1回月末の定例会議日にFDを実施することを決定（３）
・（法人本部において実施したSD研修）（３）
・オンライン授業導入に係る教職員のスキル修得及びリラクゼーション研修（３）
・ハイブリッド授業構築に向けての効果的な教授法の修得方法（３）
・ファシリテーション（会議）研修（３）
・「教・職・学」協働による教育改革ミーティング研修（３）
上記の研修後に、アンケート調査を実施している。（３）
・2021年度
第1回 「新入生オリエンテーションにおける集中講義『ソーシャルシステムデザイン入門』『課題解決入門』担当教員による振り返り」（英語）
第2回 「叡啓大学におけるEMI（English as the Medium of Instruction）の方針について」（英語）
第3回 「IEP（英語集中プログラム）についての振り返り」（英語）
第4回 「授業実施及び成績評価についての振り返り」（英語）
第5回 「PBLの進め方について」（日本語）
・2022年度
第1回 「授業の理解度を確認するためのレポート課題の設定の仕方とその多様性について」（日本語）（４）
（法人本部において実施したSD研修）
・教育ネットワーク中国（テーマ：これからの大学運営～大学職員のつながり～）、SPODフォーラム、目標・計画に係る説明会、情報セキュリティ研修、タイムマネジメント研修、ハラスメント防止研修、ハラスメント相談員研修（４）
・2022年度は、年間4回、対面で開催した。（５）
第1回 「授業の理解度を確認するためのレポート課題の設定の仕方とその多様性について」【R4.4.26 17:30～19:00】
第2回 「大学における教育：研究に係る著作権問題について」【R4.9.21 15:20～17:00】
第3回 「アクティブラーニング手法」【R4.12.21 16:00～17:30】
第4回 「研究倫理と科学者の信頼」【R5.3.8 13:30～15:10】※産学官連携・教育推進センター主催
・**2023年度は、年間4回対面で開催した。（６）**
第1回 **BEVIガイダンス（Prof. Craig Shealy's BEVI guidance）**
第2回 **LGBTQ+におけるアライシップについて、卒業プロジェクトについて**
第3回 **研究倫理集合教育（研究推進WGとの合同開催）**
第4回 **学業責任と成績評価方針に関する深い考察**
・また法人本部主催の「目標・計画に係る説明会」「情報セキュリティ研修」「ハラスメント防止研修」に参加した。（６）

b 実施方法

・対面、オンライン（新型コロナウイルス感染拡大の防止措置により、委員会及び研修会は、ZoomやMicrosoft Teams等を利用し、オンラインで実施するなどし、教育改善方法の検討に努め、引き続き、国や県の感染拡大防止に係る対策方針等を踏まえながら対応する。（３）
・2021年度においては、大学のコロナウイルス感染症拡大防止対策に係る活動基準に則り、MSTeamsを用いた全面オンラインにて実施した。（４）
・2022年度は、大学のコロナウイルス感染症拡大防止対策に係る活動基準に則り、必要な安全対策を行って対面で開催した。（５）
・**2023年度は、コロナウイルス感染症が第5類に移行したことを踏まえ、対面で開催した。（６）**

	c 開催状況（教員の参加状況含む） ・FD Teamsでの協議（随時／参加者：教員2名・職員5名）、対面協議1回（参加者：教員2名・職員2名）（3） ・SDについては、今年度から法人本部で計画、決定された研修に本学教職員も参加する。（3） ・FD Teamsでの協議（随時／参加者：教員3名・職員2名）（4） ・各FDにおける教員の出席率：所用等においてやむを得ず参加できない教員を除き、概ね100%（4） ・SD研修については、法人本部で決定した研修が、オンラインやオンデマンド配信により実施された。R3.6/5に教育ネットワーク中国、R3.8/25-8/27にSPODフォーラム、R3.9/22に目標・計画に係る説明会、R4.1/18にタイムマネジメント研修、R4.3/14に情報セキュリティ研修がオンラインにて開催された。タイムマネジメント研修については、学内推薦で本学から職員1名が受講し、総務課内において、フィードバック勉強会を実施した。R4.3月は、ハラスメント防止研修とハラスメント相談員研修がオンデマンド配信で実施され、ハラスメント防止研修については、日本語と英語での動画が配信された。（4） ・第1回 【R4.4.26】教員11人 職員3人 ・第2回 【R4.9.21】教員7人 職員3人 ・第3回 【R4.12.21】教員9人 職員1人 ・第4回 【R5.3.8】教員21人 職員5人（5） ・第1回 BEVIガイダンス（Prof. Craig Shealy's BEVI guidance）→2023.9.8 教員5名 ・第2回 LGBTQ+におけるアライシップについて、卒業プロジェクトについて →2023.10.20 教員7名、職員1名 ・第3回 研究倫理集合教育（研究推進WGとの合同開催） →2023.12.21 教員19名、職員8名 ・第4回 学業責任と成績評価方針に関する深い考察 →2024.3.5 教員10名 ・この他、下記のような取組を実施した。 ・日本学生支援機構によるジェンダーアイデンティティ等に関するセミナー等外部の研修の参加推奨 ・毎週金曜日の任意FD（対面、各教員によるFD関連テーマの情報共有） ・学生のためのAcademic English Guide に関する提案（Microsoft Teams上で実施） ・（6） d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況 ・授業改善アンケートについて、当初予定していた個々の授業単位での振り返りのみではなく、学生のコンピテンシーが身に付いたかどうかについて、科目区分等の単位で組織的な検証を行うよう改善を行った。（3） ・Springクォーターにおけるアンケートの実施結果を、Summerクォーターからの教育改善に活用する。（3） ・SDについては、研修受講後アンケートをオンラインで実施し、出された意見を踏まえ随時改善している。（3） ・IEP終了後、英語力が伸び悩んでいると思われる学生に対する対応方針について、第3回FDにおける振り返りを実施後、担当教職員において追加協議を行い、補講を行うこととした（補講は2022年2月～3月にかけて実施）。（4） ・適切なコンピテンシー評価のあり方について、2021年度に授業及び成績評価を行った教員からの意見を踏まえて、今後、継続して適切な評価方法に係る意見交換を行うこととした。（4） ・SD研修については、法人本部において、アンケートをオンラインで実施し、さらに充実した学生サポートを可能とするため、大学職員に求められる知識・能力の向上に繋げている。（4） ・教員のニーズに即したFDを4件実施できた。コンピテンシー教育推進WGの主査と連携し、コンピテンシー評価に係る教員アンケートを実施した。（5） ・毎週金曜日の任意FDにおいて共有されたトピックや情報を踏まえて各自の授業改善に繋げている。（6） ③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況 a 実施の有無及び実施時期 入学時オリエンテーション実施時の集中講義2科目「ソーシャルシステムデザイン入門」「課題解決入門」においてアンケートを実施した。（実施時期） ・各クォーター終了後、学生に対して教学ポータルサイト「MyEikei」を通じて、学生自身による学びの振り返りを通して、大学全体の教育を改善するための「教育改善のためのアンケート」を実施した（対象：各クォーターにおける全授業）。（4） ・上記に加えて、各授業担当が自らの授業改善のため、任意の質問を設定し、MS Teams等を用いて授業別アンケートを随時実施した。（4） ・また、新型コロナウイルス感染症拡大防止策及びオンラインを含む授業受講環境について、机に備え付けたアクリル製の三面ガードの実際の利用状況や、オンライン授業における通信環境などを問う「授業受講環境に関するアンケート」を実施した。（4） ・毎クォーター終了時に、教育改善アンケートを実施した。（年に4回）また、授業担当教員による個別の科目に関するアンケートを、授業期間中及び授業終了後に随時実施した。（5） ・引き続き、毎クォーター終了時に教育改善アンケートを実施した。（年に4回）また、授業担当教員による個別の科目に関するアンケートを、授業期間中及び授業終了後に随時実施した。（6） b 教員や学生への公開状況、方法等 ・科目担当教員への結果開示（各科目担当1名） 学生への公開方法については検討中（3） ・授業に係る改善事項については、FDにおいて共有した上で、各担当教員により、次年度実施授業に活かすこととしている。（4） ・授業受講環境に関するアンケート結果を踏まえて、三面ガードを廃止することとし、代わりに学生に対して不織布マスクの着用を徹底することとした。（4） ・集計されたアンケート結果を授業担当教員に共有した。アンケートの中で即時の対応が必要なものについて、学生へのフィードバックを行い、随時の改善に努めた。（5） ・引き続き、集計結果を授業担当教員に共有し、学生へのフィードバックを行うとともに、随時の改善に努めた。（6）
--	--

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

（４） 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

叡啓大学では、社会を俯瞰する視野を持ち、他者との協働のもと、文理の枠を超えた知識やスキルを組み合わせることで課題の解決を図り、新たな価値を創り出すことのできる人材を育成し、地域から国際社会まで広く貢献することを目的としている。

そのための教育課程は、SDGsの17のゴールを国連が「2030アジェンダ」で分類した5P（People（人間）、Prosperity（繁栄）、Planet（地球）、Peace（平和）、Partnership（パートナーシップ））を軸とし、様々な学問分野を横断的に学修できるよう、「リベラルアーツ科目」・「基本ツール科目」・「実践英語」による知識・スキルの「修得」と、「課題解決演習（PBL）」と「体験・実践プログラム」による「実践」を、学生の課題意識や学修状況に応じて履修し、学士力を培い、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定めたコンピテンシー（資質・能力）を身に付けられるような体系となっている。

現時点において、既に1年次のSpringクォーターとSummerクォーターの半年間で行われる「Intensive English Program（英語集中プログラム）」もスタートしており、英語で授業を受けられるレベルの実践的な英語力の修得を目指し、教育・研究活動を開始したところである。

また、新型コロナウイルス禍において感染対策としてオンライン授業を実施し、学生の学びに支障のないよう対応しており、学部を目指す教育の質も担保できている。

教員組織編成においては、専任教員の就任辞退者4名（本人のやむを得ない事情）があったが、後任として5名の専任教員を配置する計画としている。令和2年12月～令和3年1月に実施した公募を含め、4名の専任教員候補者を選考した。当該4名の専任教員候補者については大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審し、令和3年5月28日に教員資格審査（AC教員審査）の結果伝達があり、4名の後任候補者の職位・科目担当の資格が認められたため、当該科目の授業開始前に採用し、学生の教育・研究の質に支障がないように速やかに採用手続きに入る。残りの1名については、現在学内で公募実施に向けて調整中であるが、既に令和3年4月に開講している科目については、当該科目担当の専任教員（教授）が引き続き指導体制に責任を持つとともに、あわせて兼任教員の追加・補充及び兼任教員の専門性に応じた担当科目の見直し等の対応も実施し、現時点においては学生に対して教育上の支障はでない。しかしながら早急に次年度開講までに後任の専任教員を補充するべく、令和3年度中には後任の専任教員の公募を実施する予定であり、設置計画における教員組織編成計画の確実な履行に努める。

入学者の選抜においては、春入学者の定員80名に対し、86名とほぼ定員通りの入学者を得ることができた。また、学生を迎え入れるにあたり、開学までに、限られた予算の中で施設設備の改修工事を行うとともに、必要となる備品を精査し、調達した。今後は教員や学生の意見を踏まえつつ、改善が必要とみられる施設及び備品については対応を検討していく。

学部・学科の管理運営においては、教員会議を毎月開催することとし、4月に第一回目の会議を終えた。また、各種委員会等もあわせて動き始めたところである。

以上のように、開学から現在までにおいて、設置計画に基づき、設置の趣旨や目的を満たすための教育・研究活動における取り組みや対応を開始した。引き続き、設置計画の確実な履行を推進していく。

（３）

叡啓大学では、社会を俯瞰する視野を持ち、他者との協働のもと、文理の枠を超えた知識やスキルを組み合わせることで課題の解決を図り、新たな価値を創り出すことのできる人材を育成し、地域から国際社会まで広く貢献することを目的としている。

そのための教育課程は、SDGsの17のゴールを国連が「2030アジェンダ」で分類した5P（People（人間）、Prosperity（繁栄）、Planet（地球）、Peace（平和）、Partnership（パートナーシップ））を軸とし、様々な学問分野を横断的に学修できるよう、「リベラルアーツ科目」・「基本ツール科目」・「実践英語」による知識・スキルの「修得」と、「課題解決演習（PBL）」と「体験・実践プログラム」による「実践」を、学生の課題意識や学修状況に応じて履修し、学士力を培い、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定めたコンピテンシー（資質・能力）を身に付けられるような体系となっている。

今年度についても、既に1年次のSpringクォーターとSummerクォーターの半年間で行われる「Intensive English Program（英語集中プログラム）」もスタートしており、英語で授業を受けられるレベルの実践的な英語力の修得を目指し、教育・研究活動を開始したところである。

また、新型コロナウイルス禍において感染対策としてオンライン授業を実施し、学生の学びに支障のないよう対応しており、学部を目指す教育の質も担保できている。

教員組織編成においては、現時点において補充のできていない専任教員の就任辞退者（本人のやむを得ない事情）は3名である。1名の専任教員候補者については、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受審中である。1名の専任教員候補者については、令和4年6月の大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）受審の準備中である。残りの1名については、現在選考中である。

3名の教員については、当該科目の授業開始前に採用し、学生の教育・研究の質に支障がないように速やかに採用手続きに入る。既に令和4年4月に開講している科目については、兼任教員の追加・補充及び兼任教員の専門性に応じた担当科目の見直し等の対応も実施し、現時点においては学生に対して教育上の支障はでない。しかしながら早急に次年度開講までに後任の専任教員を補充できるよう引き続き状況を注視していく。なお、令和4年度中には専任教員充足率は100%になる見込みである。

入学者の選抜においては、春入学者の定員80名に対し、80名とほぼ定員通りの入学者を得ることができた。また、学生を迎え入れるにあたり、開学までに、限られた予算の中で施設設備の改修工事を行うとともに、必要となる備品を精査し、調達した。今後は教員や学生の意見を踏まえつつ、改善が必要とみられる施設及び備品については対応を検討していく。

学部・学科の管理運営においては、教員会議を毎月開催している。また、教員と職員が共同で業務を行う各種委員会等も積極的に活動している。

以上のように、開学から現在までにおいて、設置計画に基づき、設置の趣旨や目的を満たすための教育・研究活動における取り組みや対応を開始した。引き続き、設置計画の確実な履行を推進していく。

（４）

叡啓大学では、社会を俯瞰する視野を持ち、他者との協働のもと、文理の枠を超えた知識やスキルを組み合わせることで課題の解決を図り、新たな価値を創り出すことのできる人材を育成し、地域から国際社会まで広く貢献することを目的としている。

そのための教育課程は、SDGsの17のゴールを国連が「2030アジェンダ」で分類した5P（People（人間）、Prosperity（繁栄）、Planet（地球）、Peace（平和）、Partnership（パートナーシップ））を軸とし、様々な学問分野を横断的に学修できるよう、「リベラルアーツ科目」・「基本ツール科目」・「実践英語」による知識・スキルの「修得」と、「課題解決演習（PBL）」と「体験・実践プログラム」による「実践」を、学生の課題意識や学修状況に応じて履修し、学士力を培い、卒業認定・学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定めたコンピテンシー（資質・能力）を身に付けられるような体系となっている。

今年度についても、既に1年次のSpringクォーターとSummerクォーターの半年間で行われる「Intensive English Program（英語集中プログラム）」もスタートしており、英語で授業を受けられるレベルの実践的な英語力の修得を目指し、教育・研究活動を開始したところである。

教員組織編成においては、現時点において補充のできていない専任教員の就任辞退者（本人のやむを得ない事情）は1名である。この専任教員候補者については、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を令和5年3月に受審し、令和5年5月に審査結果で職位・科目が適格と認められた。

この教員については、AC教員審査において職位及び資格が適格と認められたため、当該科目の授業開始前に採用し、学生の教育・研究の質に支障がないように速やかに採用手続きに入る。既に令和5年4月に開講している科目については、兼任教員の追加等の対応も実施し、現時点においては学生に対して教育上の支障はでない。なお、令和5年4月の専任教員充足率は113.6%である。

入学者の選抜においては、春入学者の定員80名に対し、78名とほぼ定員通りの入学者を得ることができた。また、学生を迎え入れるにあたり、開学までに、限られた予算の中で施設設備の改修工事を行うとともに、必要となる備品を精査し、調達した。今後は教員や学生の意見を踏まえつつ、改善が必要とみられる施設及び備品については対応を検討していく。

学部・学科の管理運営においては、教員会議を毎月開催している。また、教員と職員が共同で業務を行う各種委員会等も積極的に活動している。

以上のように、開学から現在までにおいて、設置計画に基づき、設置の趣旨や目的を満たすための教育・研究活動における取り組みや対応を開始した。引き続き、設置計画の確実な履行を推進していく。

（５）

観啓大学は、社会を俯瞰する視野を持ち、他者との協働のもと、文理の枠を越えた知識やスキルを組み合わせ、課題の解決を図り、新たな価値を創り出すことのできる人材を育成し、地域から国際社会まで広く貢献することを目指している。

その教育課程は、SDGsの17ゴールを国連が「2030アジェンダ」で分類した5P〔People(人間)、Prosperity(繁栄)、Planet(地球)、Peace(平和)、Partnership(パートナーシップ)〕を軸とし、複雑な社会を俯瞰的に捉えることができる「リベラルアーツ科目」をはじめ、新しい社会システムを描くことができるデジタルリテラシーや思考系等の「基本ツール科目」、「実践英語」を通じて、知識・スキルの『修得』を図り、それを「課題解決演習(PBL)」や「体験・実践プログラム」で『実践』する中で、学んだ知識やスキルがどのように役立つかを理解し、更に新たな学びにつなげる好循環を創出することにより、学士力の着実な養成と卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる5つのコンピテンシー(資質・能力)の涵養を図るものとなっている。

令和3年度の開学以来、このカリキュラムについては、当初予定した科目の変更や廃止はなく、全ての科目を日本語と英語の2カ国語で開講するなど、計画どおり進んでおり、学年完成を迎える令和6年度からは、学びの集大成と位置付ける「卒業プロジェクト(4年次必修)」を開講し、学生は、これまでの学修成果をベースとして、自ら課題を設定の上、その課題の元となる解決すべき問題を抽出し、解決策を提案するまで一貫して取り組んでいるところである。

また、こうした学修に実社会で生じている課題を積極的に採り入れ、より一層の実践力の向上を図るため、企業やNP0、国際機関、地方公共団体等多様な主体との連携拠点「観啓大学実践教育プラットフォーム協議会」を設置し、令和6年5月1日現在、148団体と目標(令和6年度末70団体)を大きく上回る参画団体を確保するなど、学修基盤の整備も順調に進んでいる。

次に、教員組織編成に関しては、専任教員の就任辞退者(本人のやむを得ない事情)の補充を令和5年10月の1名採用をもって完了し、令和6年4月には、データサイエンス関連科目の充実を目指して追加採用を行うなど、専任教員充足率は100%を超える122.7%となっている。

入学者の選抜に関しては、今年度、春入学について、定員の80名の入学者を確保するとともに、留学生を中心とする秋入学(定員20名)についても、コロナ禍からの回復に加え、国内外の留学フェアへの出展やウェブサイト・オンラインによる積極的なPR、本学独自の給付型奨学金制度の構築等を通じて、現段階で16名の留学生を確保しており、現在実施している第3回選抜において、定員を充たす20名を確保できる見込みである。また、交換留学に関する国際交流協定締結校も30校を超え、昨年度、延べ12名の交換留学生を受け入れるなど、異なるバックグラウンドを持ち、多彩な資質・能力を有する学生が集うキャンパスが具現化している。

進路支援に関しては、「誰一人取り残さない」をモットーに、1年次から全ての学生を対象に個別コーチングを実施するとともに、令和5年度に設置した「キャリアデザインオフィス」をハブとして、観啓大学実践教育プラットフォーム協議会参画企業や起業家育成コミュニティとの連携のほか、実社会で活躍する人材を「キャリアメンター」に任命(33名)し、学生からの相談体制を整えるなど、学生一人ひとりの要望に沿ったきめ細かなキャリア支援に取り組んでいる。

こうした中、昨年開催されたG7広島サミットのサイドイベント(ユニタール主催)において、日本代表として討論会に参加した学生や「レガシー・プロジェクト」のメンバーとして欧州に派遣された学生をはじめ、「文部科学大臣杯全国青年弁論大会」において優良賞を獲得した学生、一般社団法人を設立して、大学と地域をつなげるプロジェクトに取り組む学生など、地域から国際社会まで幅広く活躍する学生が現れている。

以上のとおり、令和3年度の開学以来、設置計画の具体化に向けて、教育・研究活動に鋭意取り組んできたところであり、現段階において、所期の目標は概ね達成できたものと考えている。

今後については、観啓大学の更なる発展に向けて、現在、学長のリーダーシップのもと、教職員のほか、学生も巻き込みながら、2030年を目標とする「発展構想」の策定に着手しており、目学生の育成と社会・企業の成長を有機的に結び付ける本学独自の教育プログラムの確立、充実に取り組む所存である。(6)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

- 毎年自己点検・評価はPDCAに沿って実施予定。(3)
- 毎年自己点検・評価はPDCAに沿って実施予定。(4)
- 毎年自己点検・評価はPDCAに沿って実施予定。(5)
- 毎年自己点検・評価はPDCAに沿って実施予定。(6)

b 公表方法

- 現在学内で検討中である。(3)
- 現在学内で検討中である。(4)
- 現在学内で検討中である。(5)
- 現在学内で検討中である。(6)

③ 認証評価を受ける計画

(専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。)

- 認証評価を受けるべく方法等については学内で検討中である。(3)
- 認証評価を受けるべく方法等については学内で検討中である。(4)
- 認証評価を受けるべく方法等については学内で検討中である。(5)
- 認証評価を受けるべく方法等については学内で検討中である。(6)

(注)・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

- また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
- なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [(有) ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。